

I 2025 年度博士前期課程科目別ガイド

1. 教育学研究科目（R T 科目）

科目コード	012100
科目名	授業研究 A（歴史・理論）
担当教員	廣嶋龍太郎

●テーマ 「先人の教育思想から自身の教育観を形成する ― 日本教育史を中心に」

私たちが教育について考える時、その多くは各自の教育体験を土台としています。教育という行為は人と人の中で生じるものであり、そこには個別の体験に由来する多様な考え方が見出されることでしょう。しかし、「教育の歴史・理論」を考えるときには、教育体験に共通するような「価値」や「意味」もしくは体系立った「論理」が求められることになります。

教育の歴史については、古代のギリシャや中国までさかのぼることができますが、この科目では学校における「授業」という概念が広く共有されるようになった近代以降を対象として、日本における代表的な教育者、教育学者の思想を理解したいと考えています。教育の歴史上、参考に値すると考えられる先人の教育思想を検討した上で、さらに皆さんの教育に対する考え方（＝教育観）を再確認する機会を持っていただくことで、それぞれの抱える教育的課題を考える材料になればと思います。

●研究の視点

- (1) 現代日本の教育思想家についての理解
- (2) 日本教育史における各思想家の位置づけ
- (3) 各思想家の思想の主要概念の理解
- (4) 他の教育思想家の影響の検証
- (5) 理論と実践の関連への関心の深まり

●レポート課題と学習ポイント

課題 1

テキスト『日本現代初等教育思想の群像』任意の 1 章について精読し、その人物の見解に対する自分の考えを述べなさい。

テキストは五章構成であり、各章で日本の教育の基礎を築いたと位置付けられる先人の教育思想を 1 名ずつ取り上げています。沢柳政太郎、倉橋惣三、国分一太郎、遠山啓、上田薫のいずれかの予備知識や教育制度の歴史を学んだ体験を持たないと、理解しがたい点がありうると

思います。彼らの生きた時代の教育制度に関する解説書として課題2にも用いる『日本の教育史』を参照することができますが、この書で対応しきれない点は参考文献などもご覧ください。ご関心のある人物・領域が見つかることを期待しています。大変だとは思いますが、理解しがたいところはそのままにして、とにかく一つの章全体に眼を通して考察していきましょう。

各章には副題がつけられています。沢柳政太郎には「小学校教育の理念」、倉橋惣三には「幼稚園教育の理念」、国分一太郎には「綴方・国語教育の理念」、遠山啓には「算数教育の理念」、上田薫には「社会科教育の理念」が示されています。これらの教育理念は、その人物が生きた時代の影響を受けており、皆さんの教育体験と完全に一致するものではないかもしれません。しかし、その人物の生きた時代背景（家庭環境、社会制度、教育政策、時代思潮など）を検討し、今日的課題との関連性を探る作業は歴史研究の基本となります。ご自身の教育的関心と少しでも関係のある人物を探しながら、研究を進められるとよいでしょう。各人物を肯定する見解であれ、批判する見解であれ、自由に論じて下さい。

なお、これらの思想家のうちの数名が教育思想を形成する過程には、西洋の教育思想家による教育理念の影響が指摘されています。これは明治以降の日本の学校教育の歴史が西洋諸国との関係の中で形成され、発展してきたことと無関係ではありません。コメニウス、ロック、ペスタロッチ、フレーベルなどの人物の原著そのものに当たる必要はありませんが、それらの教育思想家の理念の概要についておおまかに確認することで、より深い理解につながることを期待されます。これらの確認を希望される方は、参考文献をご参照ください。

課題2

「教育を歴史的に学ぶことの意義」について、具体的事例や自身の研究課題等と関連付けながら、見解を述べなさい。

今日の教育的事象を検討するとき、歴史的な背景に立ってその意義や成り立ちを理解することが必要になることがあります。教育に関する現実的問題の解決のために、遠回りかもしれませんが物事の事実関係、価値や役割などをあらためて検討するのが教育史の役割の一つです。

「歴史を学ぶ意義」については、学校教育の各段階において繰り返し問い直される課題です。これまでの学習経験の中で、「何のために歴史を学ぶのか」という問いを抱いた方も多いかと思います。歴史についての考え方は人それぞれですので、課題1で研究した内容も参考にして、各自が「教育を歴史的に学ぶことの意義」について考察してください。

各自の歴史観を述べる際には、一般的な教育的課題や、個別の教育体験に基づくことが必要になります。歴史研究を専門とする方でなくても、自身の研究対象についての歴史的興味や関心を改めて検討するのもよいでしょう。

この課題の参考として、テキスト『日本の教育史』を指定しました。具体的事例や自身の研究課題を考える上で、各章の内容が参考になれば幸いです。今日の事例との関連では6章以降の近現代がより考えやすいと思いますが、各章のコラムも併せて参照すると、考察の手がかりになるかもしれません。（特に、2章のコラムは現職の方の見解ですので、参考になるでしょう）

なお、修士論文で教育史領域を専門に扱う場合は、テキスト『教育史研究の最前線Ⅱ』が研究上重要な示唆を与えます。この書は教育学の各領域に関する歴史の研究動向についても論及していますので、各自のテーマに応じて発展的にご確認ください。

●使用テキスト

- (1) 乙訓稔『日本現代初等教育思想の群像』東信堂、2014 年
- (2) 教育史学会編『教育史研究の最前線Ⅱ』六花出版、2018 年
- (3) 佐藤環編著『日本の教育史』あいり出版、2013 年

●参考文献

- (1) 成城学園澤柳政太郎全集刊行会編『沢柳政太郎全集』第 3 巻、国土社、1978 年
- (2) 成城学園澤柳政太郎全集刊行会編『沢柳政太郎全集』第 4 巻、国土社、1979 年
- (3) 倉橋惣三『倉橋惣三選集』第 1 巻、フレーベル館、1965 年
- (4) 上田薫『人間のための教育・社会科とその出発』（上田薫著作集第 13 巻）黎明書房、1994 年
- (5) 佐藤環監修、田中卓也編著『日本の教育史を学ぶ』東信堂、2019 年
- (6) 文部科学省『学制百五十年史』ぎょうせい、2022 年
- (7) 上坂保仁・神林寿幸・廣嶋龍太郎編著『ひとりでも学べる教育の理念・思想・歴史』八千代出版、2023 年

科目コード	012200
科目名	授業研究B（実践・評価）
担当教員	鄭谷心

●テーマ 「総合的な学習（探究）の時間の授業及び評価」

本科目では、総合的な学習の時間（高等学校の場合は、「探究」。以下、同じ。）を中心に、授業の計画、実施、評価について考えていきます。

総合的な学習の時間は、1998(平成10)年の学習指導要領の改訂に伴って創設されました。創設当時、その役割に大きな期待がもたれ学校の裁量を生かした取組が進められた一方、一部では混乱もみられました。その後およそ20年以上が経過し、学校現場に定着してきたといえるでしょう。

2017・2018・2019(平成29・30・31)年改訂の学習指導要領では、総合的な学習の時間の重要性は一層増しているようにみえます。すなわち、現行学習指導要領は、社会の変化に後追いで対応するのではなく、よりよい社会や人生を自ら創造するために必要となる資質・能力を明らかにして教育課程を改善していこうとするものであり、既存の教科等を超えて横断的・総合的に学習を広げ深めることができる総合的な学習の時間への期待は高いものがあります（「…学力の回復は総合学習の貢献が大きい」OECD 教育局長 アンドレアス・シュライヒャー氏インタビュー記事、2014(H26).7.2 読売新聞）。また、現行学習指導要領の総則において、学校において教育目標を明確にするに当たっては総合的な学習の時間の目標との関連を図ることが新たに求められています。さらに、高等学校については、小・中学校の成果を踏まえつつ生涯にわたって探究する能力を育むための総仕上げとしてこの時間を位置付ける趣旨から「総合的な探究の時間」とされています。一方、総合的な学習の時間は、既存の教科等に比べて自由度が高く、学校や教師の創意工夫に委ねられる部分が多いこともあって、全国の学校で質の高い取組を目指す上で、検討すべき課題も生じています。

そこで、本科目では、総合的な学習の時間について、まずその意義について考察し、その上で、目標設定や内容の選択・組織・配列といった全体的な枠組みの作り方について検討します。次に、総合的な学習の時間の意義を授業を通して具現化することを意識しながら、指導計画の作成や学習指導の在り方を考えていきます。さらに、よりよい授業を目指す視点から指導と評価の一体化や自己学習力の向上に向けた評価の工夫などについて考えていただきたいと思います。

なお、本科目の学習に当たって、小・中・高等学校の全体について追究してもよいし、特に関心がある学校段階があればそこに焦点を絞って追究してもかまいません。

●研究の視点

- (1) 総合的な学習の時間の意義は何か
- (2) 総合的な学習の時間の目標をいかに定めるか

- (3) 総合的な学習の時間の内容をいかに選択し組織し配列するか
- (4) 総合的な学習の時間の指導計画をいかに作成するか
- (5) 総合的な学習の時間の学習指導をいかに展開するか
- (6) 総合的な学習の時間の評価の観点や基準などをいかに設定するか

●レポート課題と学習ポイント

課題1 総合的な学習の時間の意義とその目標設定や内容の選択・組織・配列において重視すべき点について論じなさい。

課題1の追究のためには、上記「研究の視点」(1)～(3)について、テキスト及び参考文献をもとに学習を深め、総合的な学習の時間の特質を把握するとともに現状を視野に置き、根拠を明確にして自分の意見をもち、それらを表現しながら練り上げていくことが望まれます。

(1)「総合的な学習の時間の意義」について、今日、そしてこれからの学校の教育課程においてなぜ総合的な学習の時間が必要なのかを考察し、それを踏まえて、(2)「総合的な学習の時間の目標の設定」と(3)「総合的な学習の時間の内容の選択・組織・配列」に当たって重視すべき点を明らかにしてください。その際、2017・2018・2019(平成29・30・31)年改訂学習指導要領では、総合的な学習の時間を含めて教科等を貫いて育成したい資質・能力が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されていること、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成が求められていることに留意してください。

こうした学習の前提として、教育課程の基準である学習指導要領に関する知識は欠かせません。2018(平成28)年の中央教育審議会の答申やそれを踏まえて2017・2018・2019(平成29・30・31)年改訂学習指導要領についてよく理解しておくことが大切です。このことは、課題2についても同様です。

また、総合的な学習の時間の目標や内容は、学習指導要領に示された方向性を踏まえて、各学校が定めることになります。各学校において総合的な学習の時間の目標や内容を適切に設定するためには、カリキュラム論の基礎的内容を理解しておくことが重要です。

課題2 総合的な学習の時間の指導計画の作成、学習指導と評価の考え方や進め方について論じなさい。

課題2の追究のためには、前頁「研究の視点」(4)～(6)について、テキスト及び参考文献をもとに学習を深め、総合的な学習の時間の特質を把握するとともに現状を視野に置き、根拠を明確にして自分の意見をもち、それらを表現しながら練り上げていくことが望まれます。

(4)「総合的な学習の時間の指導計画の作成」については、まず全体計画や年間指導計画について簡潔に触れた上で、単元の指導計画に重点を置いてその作成上のポイントについて述べてください。次に、(5)「総合的な学習の時間の学習指導」と(6)「総合的な学習の時間の評価」については、その考え方や進め方についてポイントをまとめてください。

それらをまとめるに当たっては、「直接体験」や「課題の総合性と方法知」、「探究的な学習の過程」や「表現をもとにした評価」を重視しているといった総合的な学習の時間の特

質を踏まえて、最終的に子どもたちの資質や能力をより効果的に豊かにすることができる質の高い授業となって結実することを意図しながら考えてください。

●単位修得試験の評価基準

テキストや参考文献等を熟読した上で著者の意見と自分自身の意見を区別して記述している。
自分の意見を述べる際に根拠を明確にしている。

教育課程の基準である学習指導要領及び学習評価についての知識を有し、それを生かして自らの教育実践をデザインしている。

●使用テキスト

- (1) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版 2017
- (2) 田村学『平成 29 年改訂小学校教育課程実践講座 総合的な学習の時間』ぎょうせい 2017
- (3) 岸学ほか『学校教育ではぐくむ資質・能力を評価する 道徳・総合・特活・ICT の活用から始める評価の手引き』図書文化 2019

●参考文献等

- (1) 文部科学省ホームページ「平成 29・30 年改訂学習指導要領、解説等」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
- (2) 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』平成 28 年 12 月 21 日
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm
- (3) 学習指導要領
 - ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）』東洋館出版社 2018
 - ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）』東山書房 2018
 - ・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）』東山書房 2019
- (4) 学習指導要領の解説
 - ・文部科学省ホームページ「中学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）総合的な学習の時間編」
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_012.pdf
 - ・文部科学省ホームページ「高等学校学習指導要領解説（平成 30 年告示）総合的な探究の時間編」
https://www.mext.go.jp/content/1407196_21_1_1_2.pdf
- (5) 学習評価関係
 - ・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会『児童生徒の学習評価の在り方について（報告）』平成 31 年 1 月 21 日
 - ・文部科学省初等中等教育局長通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」平成 31 年 3 月 29 日
 - ・国立教育政策研究『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』小学校総合的な学習の時間、中学校総合的な学習の時間 平成 2 年 3 月
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>

(6) 教師用指導資料

- ・文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）』令和 3 年 3 月、株式会社アイフィス

- ・文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）』令和 4 年 3 月、株式会社アイフィス

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/main14_a2.htm

科目コード	012300
科目名	授業研究C（情報教育）
担当教員	今野貴之

●テーマ 「知識基盤社会における情報教育の実践と課題

ー情報通信技術（ICT）の活用を中心として」

本科目では、教育における ICT 活用に関する基本理念と実践上の課題の両面から研究することを目指します。

近年、情報通信技術（Information and Communication Technology 以下 ICT）が進み、情報や知識が日常生活や社会生活の基盤をなす知識基盤社会といわれています。そのような中で、その恩恵をもっとも享受すべき教育において、ICT の活用は未だ十全ではない状況にあります。たとえば、教育現場では世の中の情勢に伴い、ICT 環境が整備されつつありますが、それを用いて授業を行う教授者側の準備が整っていないことや、学習者の学習特性に対応できるような学習環境を満たし得ていない状況があります。さらに、学校教育において ICT を授業・学習面と校務面の両面で ICT を積極的に活用するための基本的な理念や方法論が確立されていないことも大きな課題のひとつとして挙げられます。

以上のような観点から、本科目においては、知識基盤社会において ICT の役割とは何か、現在の教育上の様々な問題の解決に ICT がいかに貢献し得るのか、教育における ICT の現時点における利用はどのように評価できるのかなど、教育における ICT 活用に関する基本理念と実践上の課題について考えていきたいと思います。

●研究の視点

- （１）知識基盤社会の特徴と教育への影響
- （２）情報教育の理念
- （３）教育ツールとしての ICT の有用性と限界
- （４）教授者の対応、事例研究

●レポート課題と学習ポイント

課題 1

知識基盤社会における学校及び教育のあり方について論じなさい。

情報化社会から知識基盤社会へ進んだ近年、その影響は社会・経済活動及び日常生活にも大きく及んでいます。そのことは、教育においても例外ではない状況です。特に、学習者に対し何を習得させるのかという「学習内容」と、教育の実践において ICT をいかに活用し、教育効果を高めるのかという「方法論」の両面から知識基盤社会を考えることが必要とされています。本課題では、以上のような事項について全般的に考察してください。具体的に、この課題 1 について論じるためには、以下の 3 つの観点を踏まえてテキスト及び参考文献を読み込み、学習

を深めることが望まれます。

第1に、知識基盤社会の意味を ICT の進歩と普及の観点から整理する必要があります。特に、教育におけるネットワークとメディア技術の現状と動向が重要です。

第2に、知識基盤社会における情報教育の位置付けを明らかにする必要があります。知識基盤社会において求められる資質のひとつとして、情報活用に関する基本的な能力である情報リテラシーがあります。その内容は要素が示されているものの、それぞれが独立しておらず常に関わり合っていたり、状況によって解釈が変わったりするのが現状です。さらに教授者に求められる資質のひとつとして ICT 活用指導力があげられています。以上のことから、知識基盤社会において求められる資質を従来の教育内容と合わせて整理した上で、どのような情報教育をいかに進めるかについて考察してください。

第3に、現在、ICT が教育現場でどのように活用され、その効果を上げているのか、実際の適用上でどのような問題が生じているのか、学校及び教授者はどのように対応しているのか等の実態をテキストや参考文献に留まらず調べる必要があります。例えば、(1) 教育現場において ICT はどのような学習場面でもちいられているのか、(2) 学習者の個性・学習特性に応じた個別最適な学びをどのように実施しているのか、(3) ICT (特に一人一台端末) を家庭へ持ち帰ることによる課題はなにか、(4) セキュリティを確保するためにどのような方略があるか等の視点をもって事例を調べてみてください。

以上の3観点を整理すると同時に、適宜、参考文献や先行研究を用いて理由と根拠を示しながら知識基盤社会における学校及び教育のあり方について論じてください。

課題2

次の2問のうち1問を選択して論じなさい。

課題2は選択課題(2題中1題選択)ですが、いずれの課題も今日の教育現場における ICT の利活用について、教授者と学習者の双方の立場から考察することを目的としています。各課題についてテキストや参考文献のまとめにとどまらず、教育実践を調査・分析・考察することを求めます。

① 教育現場の今日的な基本問題の解決における ICT の可能性と限界について論じなさい。

現在、教育現場における様々な問題に教授者は直面していますが、ICT はそれらの問題を解決するようなきっかけを与えてくれています。たとえば、ICT を教育に用いることによって個別教育の可能性がひろがり、学習者の興味、意欲、学習効果を高めるものと期待されています。また、特別な支援が必要な学習者への対応や、不登校児問題への解決方策としても期待され、実際、不登校児の学習、学級への復帰に効果を上げているという事例も報告されています。さらに教授者自身の教材研究の時間短縮にもつながるなど、ICT の可能性が取り上げられている現状があります。しかし、その実態はどのようなのでしょうか。ICT は教育自体の基本問題にどこまで貢献し得るのか、その限界は何かを適宜、参考文献や先行研究を用いて理由と根拠を示しながら考察してください。

② ICT を活用した国内外の遠隔教育・オンライン教育や共同研究の進め方の事例をひとつ取

り上げ、実施上想定される課題について解決への基本的な考え方を述べなさい。

ICT の教育への活用の可能性はネットワークの普及によって拡大し続けています。特に、インターネットの普及は、教育現場において高度な技術を必要とせずに遠隔教育やオンライン教育を拡大させたり、世界中の学校や生徒との交流を可能にしたりしています。さらに、インターネットを活用して各種機関から多様な情報を入手するだけではなく、Web サイトの開設を通じて情報を世界中に発信することもできる状況が整っています。さらに、初等中等教育から高等教育にかけて感染症対策のための教育が実施されたり、各種研究機関では国を超えての共同研究を行なわれたりしています。このようなネットワークを介した国内外の遠隔教育や共同研究の進め方を考察するとともに、教授者側に求められる体制、従来の学習形態との調和等、実施に向けて解決しなければならない課題についても整理し、適宜、参考文献や先行研究を用いて理由と根拠を示しながら考察してください。

● 単位修得試験の評価基準

- * 試験問題のポイントを適切に把握して記述しているか。
- * 試験問題と関連する「レポート課題と学習ポイント」で示された内容を踏まえた解答になっているか。
- * 参考文献や先行研究を用いて理由と根拠を示しながら考察されているか。
- * テキストや参考文献からだけでなく、自身の考察を踏まえた論理展開になっているか。

● 使用テキスト

1. 久保田賢一・今野貴之【編著】 『主体的・対話的で深い学びの環境と ICT アクティブ・ラーニングによる資質・能力の育成』（新装版） 東信堂 2022
2. 高鵜 裕樹・田嶋 知宏「情報メディアの活用〔新訂〕」 放送大学教育振興会 2022
3. 大島 純・千代西尾祐司【編】 『主体的・対話的で深い学びに導く学習科学ガイドブック』 北大路書房 2019

● 参考文献

1. 文部科学省編 『教育の情報化の推進』 2016
2. P.グリフィン, B.マクゴー, E.ケア【編】 三宅 なほみ【監訳】 益川 弘如・望月 俊男【編訳】 『21 世紀型スキル: 学びと評価の新たなカタチ』 北大路書房 2014
3. 岡田 正・高橋 参吉・藤原 正敏【編著】 『ネットワーク社会における情報の活用と技術 三訂版』 実教出版株式会社 2010

科目コード	012400
科目名	授業研究 D (教育社会学)
担当教員	須藤康介

●テーマ 教育社会学

近年の「教育問題」に関する教育社会学の研究知見を学び、子供・家庭・学校が抱えているさまざまな問題を、常識に捉われずに多面的に考察するスキルを身につける。現代の学校の中では何が起きているのか。学校の外では何が起きているのか。両者はどう関係しているのか。教育の役割や課題、そして今後の在り方について社会学的に検討する。

●研究の視点

教育社会学の特徴は、①エビデンスの重視、②脱常識、③格差・不平等という視点、④現代の見取り図の提示にある。大学院生は、これらの視点を身につけるだけでなく、実際にこれらの視点に基づく研究を行えるようになることが期待される。

●レポート課題と学習ポイント

課題 1 テキスト『教育問題の「常識」を問い直す 第2版』を精読し、その中から特に興味を持ったテーマを一つ選び、関連する教育社会学の先行研究を検討し、自らの考察を述べよ。

課題 2 テキスト『学習と生徒文化の社会学』を精読し、その中から特に興味を持ったテーマを一つ選び、関連する教育社会学の先行研究を検討し、自らの考察を述べよ。

テキストや先行研究の内容を要約しただけでは不可であり、テキストの内容と関係のない持論を述べても不可である。「○○という点について、自分は××だと考える。なぜなら……」のように、テキストの内容と先行研究をふまえた考察を論述する。自分の経験を根拠にするのではなく、さまざまな理論やデータに目を向けて議論することが求められる。テキスト以外に参考にした文献を、レポート末尾に明記すること。

●単位修得試験の評価基準

論述問題を出題する。教育社会学の先行研究を学習しているか、教育現象を社会学的に考察することができているか、の二つの観点から評価を行う。

●使用テキスト

- (1) 須藤康介 2019『教育問題の「常識」を問い直す 第2版』明星大学出版部。
- (2) 須藤康介 2020『学習と生徒文化の社会学』みらい。

●参考文献

岩井八郎・近藤博之編 2010『現代教育社会学』有斐閣ブックス。

酒井朗・多賀太・中村高康編 2012『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房。

志水宏吉 2010『学校にできること』角川選書。

広田照幸 2009『格差・秩序不安と教育』世織書房。

日本教育社会学会は、年 2 回『教育社会学研究』という学術雑誌を刊行している。最新の研究成果が掲載されているので、参考になる。Web 上でも閲覧できる。

科目コード	012500
科目名	授業研究 E (教育心理学)
担当教員	杉本明子

●テーマ 「教授・学習における社会文化的状況と社会的相互作用」

現代の教育現場が抱える大きな問題の1つに、学習における疎外状況、すなわち、学校での学習と日常生活における学習が乖離している状況があると考えられます。学校の教室は実際の社会や日常生活から切り離され、個々の学習者は教師から教えられた抽象的な知識やスキルの暗記・反復練習を行っているということがしばしば指摘されてきました。

近年、このような脱文脈化された個別の学習に対する批判から、社会文化的状況・活動と統合された学習や共同学習の重要性が認識されるようになり、教育心理学・認知心理学の分野においても、状況的学習論に基づいた実践研究や共同の問題解決・学習に関する研究が行われてきつつあります。

本科目では、状況的学習や共同の問題解決・学習において、具体的にどのような状況・活動が学習者の認知発達や学習を促進するのか、教授・学習活動においてどのような社会的相互作用が望ましいのかについて、教育心理学・認知心理学において大きな影響力を及ぼしたピアジェとヴィゴツキーの文献、及び、状況的学習論に関する文献を通して考えることを目的としています。

●研究の視点

- (1) 教育心理学・認知心理学における代表的な教授・学習理論の理解
- (2) 実践共同体での状況に埋め込まれた学習と従来の学校における学習の比較
- (3) 教授・学習における望ましい状況・活動や社会的相互作用についての考察

●レポート課題と学習ポイント

課題1

『ピアジェの教育学—子どもの活動と教師の役割—』と『ヴィゴツキー：教育心理学講義』を読み、ピアジェとヴィゴツキーの各々の理論で想定されている望ましい「対話と学習」のあり方を、対話者間の認知的・社会的関係性、対話の目的、対話スタイル、学習のメカニズム等の観点から比較検討しなさい。また、それぞれの長所・短所について述べなさい。

ピアジェとヴィゴツキーは、教育心理学における教授・学習研究に大きな影響力を与えた研究者であり、現在でも世界中の多くの研究者はピアジェやヴィゴツキーの教授・学習理論に基づいた研究枠組みで研究を行っています。

しかし、ピアジェ理論とヴィゴツキー理論で想定されている効果的な「対話と学習」のあり方は様々な点で異なっています。例えば、対話者間の認知的・社会的関係性、対話の目的、対

話スタイル、学習のメカニズムという観点からみると両者は明確な違いがあります。ピアジェ理論とヴィゴツキー理論の各々で想定されている対話者間の関係性は認知的・社会的に対等でしょうか、それとも、非対等でしょうか。対話の目的、すなわち、学習における対話で目指すものは何でしょうか。どのような対話のスタイルが用いられているのでしょうか。どのような学習のメカニズムが想定されているのでしょうか。

本課題では、『ピアジェの教育学—子どもの活動と教師の役割—』と『ヴィゴツキー：教育心理学講義』を熟読し、また、できれば『文化と進化の心理学：ピアジェとヴィゴツキーの視点』等の参考文献も参考にして、各々で想定されている大人と子ども、子供同士の「対話と学習」のあり方について、対話者間の認知的・社会的関係性、対話の目的、対話スタイル、学習のメカニズム等の観点から比較・検討してください。また、各々の理論の長所と短所についても考察し、自分の考え述べてください。

課題2

レイブ&ウェンガー（J. Lave & E. Wenger）の『状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加』を読み、従来の学校における教授・学習活動と実践共同体における学習活動を比較検討するとともに、これらに関してあなた自身の考えを述べなさい。

教育心理学、認知心理学においては、伝統的に実験室的状況で人工的な課題を与え、個人がどのように情報を知覚、操作、解釈するのかを明らかにすることに焦点が当てられていましたが、近年、学習が本来持っている状況性を考慮する必要性が指摘されてきました。特に、レイブ&ウェンガー（J. Lave & E. Wenger）が民俗誌的研究の成果に基づいて行った「状況的学習」（situated learning）の理論的考察は、学習研究に多大な影響を与えました。

本書において、レイブ&ウェンガーは、学習を個人の頭の中の出来事ではなく、実践共同体への正統的周辺参加（Legitimate Peripheral Participation: LPP）として特徴づけています。すなわち、学習は、個々の学習者が抽象的な知識の断片を獲得し、それを後に別の文脈において使用することではなく、実践共同体において実際に仕事の過程に従事することによってその共同体の様々な活動を遂行する技能を獲得していく、という状況の中に位置づけて考えられるものだとしています。

レイブ&ウェンガーが紹介している実践共同体での学習活動と従来の学校の教室における教授・学習活動を比較してみてください。実践の目的、人間関係、知識・技能の習得過程等の様々な点において大きな違いを見つけることができるでしょう。これらを比較検討した結果を基にして、望ましい教授・学習の状況・活動や社会的相互作用に関して、あなた自身の考えを書いてください。

●使用テキスト

- (1) ジャン・ピアジェ（著）／シルビア・パラット＝ダヤン & アナスタシア・トリフォン（編）／芳賀純 & 能田伸彦（監訳）／原田耕平, 岡野雅雄, & 江森英世（訳）（初版 2005）『ピアジェの教育学—子どもの活動と教師の役割—』 三和書籍
- (2) ヴィゴツキー（著）／柴田義松 & 宮坂秀子（訳）（初版 2005）『ヴィゴツキー：教育心理学講義』 新読書社

- (3) ジーン・レイブ & エティエンヌ・ウエンガー (著) / 佐伯胖 (訳) (初版 1993) 『状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加』 産業図書

●参考文献

- (1) 高取憲一郎 (著) (2000) 『文化と進化の心理学：ピアジェとヴィゴツキーの視点』 三学出版
- (2) 白井桂一 (編著) (2005) 『21世紀への知：ジャン・ピアジェ』 西田書店
- (3) ヴィゴツキー (著) / 土井捷三 & 神谷栄司 (訳) (2003) 『「発達の最近接領域」の理論－教授・学習過程における子どもの発達』 三学出版

科目コード	012510
科 目 名	授業研究 F（教育行財政）
担 当 教 員	神林寿幸

■テーマ 「教育政策・行政の考え方」

1984年に中曽根康弘内閣は、中央教育審議会とは別に、内閣直属の教育関係の諮問会議として臨時教育審議会（臨教審）を設置した。臨教審は21世紀を見据え、教育改革に関する諸提言を行い、1987年の第四次答申では「個性の尊重」「生涯学習体系への移行」「変化への対応」という方針を示した。その後、1990年代に入り、教育分野で地方分権改革や規制緩和が進んだ。例えば、地方分権改革の一環で、教育長任命承認制の廃止や学級編制基準の弾力化が進められた。また、三位一体改革に伴い、2006年度より義務教育諸学校教員の給与に対する国庫負担率が2分の1から3分の1に引き下げられ、都道府県の負担率が増加した。規制緩和については、学校選択制の導入（通学区域の弾力化）や株式会社立学校の創設などが挙げられる。

これらの改革は、明治期の近代学校制度の確立に向けた改革や戦後の教育改革に続き、「第三の教育改革」と呼ばれることもある。「第三の教育改革」についてはさまざまな議論が行われてきたが、その中には断片的な分析や一面的な視点に偏ったものも存在する。しかし、政策とは、多様な価値観や思想を持つアクターたちの譲歩によって成立する、いわば妥協の産物である。そのため、教育政策を分析・考察する際には、多面的な視点が重要となる。

以上を踏まえて、本科目では、教育政策を基礎づける価値や、その価値を実現するための手段である教育行政のあり方に関する概念および先行研究の知見を学ぶ。これにより、日本で進行中の教育改革や教育政策を多面的に分析・考察できる力を養うことを、本科目の目的とする。

■研究の視点

- (1) 教育政策の背景にある価値や思想に関する多面的な考察
- (2) 教育政策を実現するための手段としての教育行政のあり方に関する多面的な考察
- (3) 教育改革の下で教育行政が果たす役割と課題に関する多面的な考察

■レポート課題と学修ポイント

課題 1

使用テキストである青木栄一著『文部科学省——揺らぐ日本の教育と学術——』（中央公論新社、2021年）を読み、次の問いに答えなさい。

- (1) 近年の日本の教育行政をめぐる特徴を、同書は「間接統治」と表現した。ここでの「間

接統治」は何を意味するのか。具体的な政策を挙げながら説明しなさい。

- (2) 同書の指摘する「間接統治」という特徴をもつ近年の日本の教育行政をめぐる課題について、あなたの考えを述べよ。

(学修ポイント)

- (1) 同書では、「第三の教育改革」を読み解く上で参考となる文部科学省や教育委員会の組織、教育制度の現状が詳細かつ丁寧に解説・分析されており、今後の日本の教育および学術研究政策の課題や展望についても述べられている。教育関係者に広く読んでほしいため、本科目の使用テキストとして同書を指定し、関連事項をレポート課題とした。

さて、「間接統治」は同書のキーワードの一つである。皆さんの中には「間接統治」という言葉を聞いたことがある方もいるかもしれない。同書にも言及があるように、「間接統治」はもともと敗戦後の日本の占領統治において採用された方式であり、GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）が日本政府を通じて占領政策や戦後改革を進めた統治形態を指す。

同書は、「間接統治」が近年の日本の教育行政にも見受けられると指摘している。もちろん、同書が言う「間接統治」は比喩的な表現である。レポートをまとめるにあたっては、日本の教育行政に見られる「間接統治」について、「誰が」「誰を通じて」「具体的に何をしているのか」という点を同書から読み解き、まとめてほしい。その際、具体的な教育政策や教育改革にも言及しながら論じること。

- (2) (1) でまとめた「間接統治」について、その課題を自由に論じてほしい。ただし、レポートは感想文ではないため、事実やデータ、先行研究の知見に基づいて、あなた自身の考えや議論を展開すること。同書に記述のある教育政策や教育改革から「間接統治」の課題を導き出す、あるいは同書に記載されている筆者の考察を要約してレポートにまとめるだけでは、「あなたの考えを述べた」ことにはならず、不合格となる。「間接統治」が及んでいると考える具体的な教育政策や教育改革を選び、それらを事例として分析・考察し、その課題をまとめること。

課題 2

使用テキストである村上祐介・橋野晶寛『教育政策・行政の考え方』（有斐閣、2020 年）を読み、以下の 3 問のうち 1 問を選択して、解答しなさい。なお解答にあたっては、冒頭に解答した問題番号も記すこと。

- (1) 近年、日本では少人数学級指導の推進を求める議論がある。この少人数学級指導の推進についてメリットとデメリット双方を踏まえて、少人数学級指導の推進に対するあなたの考えを論じなさい。

- (2) 2014年に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、首長の地方教育行政への関与が強まることになった。この法改正のメリットとデメリット双方を踏まえて、同法の改正に対するあなたの考えを論じなさい。
- (3) 近年、日本の教育分野ではエビデンスに基づいた政策立案（Evidence Based Policy Making: EBPM）が重要視されている。EBPMのメリットとデメリット双方を踏まえて、EBPMに対するあなたの考えを論じなさい。

（学修ポイント）

繰り返しになるが、レポートは感想文ではない。感想文が悪いというわけではなく、ここではレポートの執筆が求められているため、レポートを書かなければならない。サッカーの試合で野球のルールを適用してはならない（できない）ように、レポートを書く時にはその執筆に求められるルールに基づかなければならない。レポートでは読み手が検証・確認できる事実やデータ、先行研究の知見に基づいて客観的かつ論理的に議論を展開することが求められる。

また、大学院の授業科目であるため、専門的な議論を要求する。指定テキストや参考文献で引用されている文献や自分で「CiNii Research」「Google Scholar」「国立国会図書館サーチ」等で検索・入手し読んだ関連文献を踏まえること（なお、ここでいう文献とは図書や学術論文を指す）。そうでないレポートは不合格とする。

課題2では、教育政策および教育行政のあり方について、メリットとデメリット双方を検討したうえで、あなたの考えを論じることが求められる。解答にあたっては、メリットとデメリットを客観的に示しながら、両者を比較衡量したうえで、あなたの考えを述べることが重要である。本問題を通じて、客観的にメリットとデメリットを比較衡量し、今後の教育政策や教育行政を展望する姿勢を身につけてもらいたい。こうした姿勢は、教育行政職員として政策決定を行ったり、あるいは教職員として教育方法や学校での取り組みを選択したりする際に重要となる。

■単位修得試験の評価基準

- (1) 問題のポイントを適切に把握して記述されている。
- (2) 「レポート課題と学修ポイント」で示された内容を踏まえた解答である。
- (3) 事実やデータ、先行研究の知見に基づいて、自身の意見や考えが述べられている。

■使用テキスト

- (1) 青木栄一（2021）『文部科学省——揺らぐ日本の教育と学術——』中央公論新社
- (2) 村上祐介・橋野晶寛（2020）『教育政策・行政の考え方』有斐閣

■参考文献

- (1) 青木栄一・川上泰彦編著（2023）『教育の行政・政治・経営〔改訂版〕』放送大学教育振興会
- (2) 松塚ゆかり（2022）『概説 教育経済学』日本評論社

科目コード	012600
科目名	幼児教育研究A（保育）
担当教員	齋藤政子

- テーマ 「我が国の保育の歴史と保育所・幼稚園の保育実践」
「近年の子ども・家族の実態と保育ニーズ」
「保育者の専門性と「保育の質」」

●レポート課題と学習ポイント

課題1 わが国の保育施設（幼稚園・保育所）は、どのように成立し、どのような役割が期待されてきたか、子どもや家族の実態と、保育ニーズの変遷を視野に入れながらまとめなさい。

課題1に取り組んでいくと、近年の子どもと子育ての実態と、保育が変化せざるをえない要因が見えてきます。我が国の保育園と幼稚園の成立・発展過程をおさえた上で、近年、保育施設でみられる子どもの実態や、地域・家庭で抱える子育て困難などについても触れ、保育ニーズがどう変化し、その際、どのような保育実践が積み上げられてきたのか、保育施設はどう評価されているかについて論述してください。

レポートは、日本の保育施設が、どのような役割を果たしてきたのかについてトピックを挙げながら「明治期」「大正期」「昭和・戦時体制期」「戦後改革期」「高度経済成長期」「保育の量的拡大と質的深化の時期」「子ども・子育て支援制度施行以降」等に分けて説明しましょう。その際、子どもや子育ての実態やその時期の保育ニーズを踏まえて日本の保育全体を俯瞰してみましょう。時折、段落のほとんどないレポートが散見されます。適切に段落を分け、節を立てて論じてください。幼稚園の成立過程と保育所の成立過程は違いますので、要因等にも触れながら論じてください。

保育ニーズとの関連で見ると、歴史的には、日本の保育はどうみえるのか、あるいは、21世紀に入った日本の保育の実態は、歴史的にみてどうなのか、全体を把握したあと、各論に入って議論を展開すると、オリジナリティが発揮され、しかも説得力のあるレポートとなるのではないかと思います。

課題2 「保育の質」と「保育者の専門性」について、どのような議論や課題があるのか、テキスト等を引用しながら論じなさい。

日本では、核家族化や情報化、三間の減少などの子どもを取り巻く環境の変化の中で、家庭や地域の教育力が低下してきたと言われてきました。その理由として、日本の子育てやしつけ自体が衰退してきたのだという言説もあります。もちろん、日本の家族や子育てそのものが時代に応じて変化せざるを得なかったのだという意見もあるでしょう。しかし、子どもが育つ基

盤となる生活環境が変化したのであれば、子どもと環境との相互作用や、両者に関わる養育者・保育者自身も変化せざるを得ないとも言えるでしょう。直接子どもに関わる teacher や caregiver だけでなく、政策を計画・立案する政府・自治体の子育て・子育て支援の動向にも目を向ける必要があるかと思います。

子育ては、我が国では近年どのように変化し、どのような子育て問題が存在しているのかをふまえ、子育てと「保育」との違いを明確にしたうえで、保育者の専門性と「保育の質」について論じてください。主要先進国を始めとする多くの国々で、現在、「保育・幼児教育改革」が進んでいます。なぜ、各国が「保育」に注目するのか、それは、「保育」が、人材育成の投資という側面があるばかりでなく、各国国民とその社会の未来にとって必要不可欠な課題だからです。子どもたちの「今」を豊かにすることが、人々の未来も豊かなものにしていくということに気づき始めたからではないでしょうか。実際、OECD は、子どもたちに質の良い保育を提供することは、成長後に収入が安定し健康的な生活を送れる土台になるだけでなく、その社会が安全で快適である保障になり得るということに注目し、加盟各国に対し提言を出しています。

OECD が注目している点は、「保育」の量的拡充よりもむしろ、質的向上です。このように、「保育の質」研究をおさえたうえで、保育者の資質と専門性はどうあるべきかについて論じてください。近年、OECD 報告書でも、質の議論の枠組みを紹介し、改善の必要性について説明しています。「保育の質」議論の必要性や、「保育の質」の構造化などについては、テキストの中にも触れられており、そのほか参考書の中でも多くの研究が報告されていますので、それらを参考にしつつ、保育者に必要な専門性と「保育の質」との関連について論述してください。日本保育学会編の『保育学講座』全5巻や OECD のスターティング・ストロング (Starting Strong) に関する報告書なども参考にしてください。

●使用テキスト

- (1) 宍戸健夫 『日本における保育園の誕生 子どもたちの貧困に挑んだ人びと』 新読書社 2014
- (2) 秋田喜代美, 古賀松香編著 『世界の保育の質評価——制度に学び、対話をひらく』 明石書店 2022
- (3) 近藤 幹生, 幸田 雅治, 小林 美希, 本田 由紀, 普光院 亜紀, 川田 学『保育の質を考える—安心して子どもを預けられる保育所の実現に向けて』 明石書店 2021

●参考文献

- (1) 日本保育学会 編 『保育学講座』 全5巻 東京大学出版会 2016
- (2) グニラ・ダールベリ/ピーター・モス/アラン・ペス著『「保育の質」を超えて』 ミネルヴァ書房 2022
- (3) 大宮勇雄 著 『保育の質を高める』 ひとなる書房 2006
- (4) 中坪史典 著 『テーマでみる保育実践の中にある保育者の専門性へのアプローチ』 ミネルヴァ書房 2018

科目コード	012700
科目名	幼児教育研究B（児童文化）
担当教員	羽矢みずき

●テーマ「子どもの成長と文化」

児童文化研究とは何か。従来は教育現場などで使われる絵本、紙芝居、児童文学、おもちゃなどの児童文化財を研究対象とする分野でした。ところが最近の児童文化研究は、大人が子どものために用意した文化財に関する考察を大きく踏み越えようとしています。子どもが衣食住、さらには自然環境や都市景観などまでも含む諸文化と関わる中で、どのように成長していくのかということを考える分野に変化してきています。児童文化財の研究を、それらの受け取り手である子どもたちの観察をもとに深めていくだけではなく、こうした児童文化研究の新しい動向をみながら進めていきたいと考えます。

●研究の視点

- (1) 自分自身の成長と諸文化との関わり。
- (2) 「原体験・原風景」とは何か。
- (3) 児童文化財それぞれの歴史と現在のあり方。そして、子どもたちをめぐる状況の変化との関連。
- (4) 児童文学作品に表れた子ども像、子ども観の考察。
- (5) これからの児童文化研究はどうあるべきか、それはどのようにして可能か。

●レポート課題と学習ポイント

課題1

自分自身の幼児期から小学校時代頃までを振り返り、「私の遊びの歴史」を記述しなさい。そこから発展して、自分にとっての「原体験・原風景」とは何かということについて説明しなさい。

「私の遊びの歴史」を記述することによって、児童文化および児童文化研究について考えるための視点形成をします。

記述する際には、それぞれの遊びをいつ（何年ごろ、何歳で）誰と（どういう仲間と）どこで（どのような自然・都市環境のなかで）どのように（その遊びのしかた、ルール）といったことを、できるかぎり精密に書いてください。一部年表形式にする、絵や図を入れるなど、記述のしかたについては十分に工夫をしてください。振り返ってみて、それぞれの遊びの場と時間から、自分が何を得たと思えるか（おもしろかったこと、学んだことなど）についても書いてください。

参考文献(9)浅岡靖央他（編）『子どもの育ちと文化』の第5章「子どもの文化としての遊び」（師岡章）や第6章「子どもの育ちと遊び」（木下勇）が、自分の過去の遊びを思い出し、それを記述する際のヒントを与えてくれます。(4)遠藤ケイ『子ども遊び大全』にも様々なヒントがあるでしょ

う。

そこから発展して、自分にとっての「原体験・原風景」とは何かということについても考えてほしいので、「原体験・原風景」については、(8)古田足日『子どもと文化』を読んでその意味をつかんでください。(3)奥野健男『増補 文学における原風景』や(2)岩田慶治(編)『子ども文化の原像』なども参考になります。

課題2

テキストから作品を一つ取りあげて、その作家について説明し、さらに作品について論じなさい。

テキスト(3)川端有子『児童文学の教科書』(玉川大学出版部)で日本の児童文学を概観します。そしてテキスト(1)桑原三郎・千葉俊二(編)『日本児童文学名作集』上(岩波文庫)と(2)桑原三郎・千葉俊二(編)『日本児童文学名作集』下(岩波文庫)に収められた作品の中から、興味や関心を持った作品を一つ選びます。作品が成立した時代の状況を考慮し、自分の興味や関心を深めて作家と作品について論じます。レポートの最初には、レポートのテーマや論点を表すタイトルをつけてください。

作品に表れた子ども像、あるいは、そこからうかがえる作者の子ども観などに注目して論じるのがよいと思いますが、論じる観点は様々です。ただ「素手」で論じるのではなく、勉強して書いてください。作品の扉に書かれた作者の紹介をたよりに、同じ作家の作品を数多く読んで考察を深めるのもよいでしょう。あるいは、巻末の解説を参考にして、同じようなテーマを扱っている他の作家の作品や、当該の作家とは対照的な仕事をしている作家の作品を読むというのも有効です。テキストに収められているのは、いずれも短編ですから同じ作家の作品を読むにしても、別の作家の作品を読むにしても長編に取り組むとよいでしょう。比較検討する他の児童文学作品は、地域の図書館で探してください。

参考文献(11)鳥越信(編著)『たのしく読める日本児童文学 戦後編』が児童文学作品を探すガイドになります。児童文学の現在の状況に至るまでにはどのような歴史があったのか、児童文学の現在の状況をどう見るべきかなどについては、(10)鳥越信(編著)『はじめて学ぶ日本児童文学史』や(6)宮川健郎『現代児童文学の語るもの』などを参照してください。

児童文学の歴史や現在について考える場合には、参考文献(1)雑誌『日本児童文学』の様々な特集を見るのもよいでしょう。日本児童文学者協会の機関誌で、1946年に創刊された雑誌です。地域の中央館的な図書館には、バックナンバーや復刻版が所蔵されていることもあります。明星大学の附属図書館にも一部所蔵されています。

●使用テキスト

- (1) 桑原三郎・千葉俊二(編)『日本児童文学名作集(上)』岩波文庫 1994年
- (2) 桑原三郎・千葉俊二(編)『日本児童文学名作集(下)』岩波文庫 1994年
- (3) 川端有子『児童文学の教科書』玉川大学出版部 2013年

●参考文献

- (1)『日本児童文学』(日本児童文学者協会機関誌)1946年

- (2) 岩田慶治 (編)『子ども文化の原像』日本放送出版協会 1985年
- (3) 奥野健男『増補 文学における原風景－原っぱ・洞窟の幻想－』集英社 1989年
- (4) 遠藤ケイ『子ども遊び大全』新宿書房 (後に講談社+α文庫) 1991年
- (5) 仙田満『子どもと遊び－環境建築家の眼－』岩波新書 1992年
- (6) 宮川健郎『現代児童文学の語るもの』NHKブックス 1996年
- (7) 古田足日『児童文化とは何か』久山社 1996年
- (8) 古田足日『子どもと文化』久山社 1997年
- (9) 浅岡靖央・加藤理 (編)『子どもの育ちと文化』相川書房 1998年
- (10) 鳥越信(編著)『はじめて学ぶ日本児童文学史』ミネルヴァ書房 2001年
- (11) 鳥越信(編著)『たのしく読める日本児童文学 戦後編』ミネルヴァ書房 2004年

科目コード	012820
科目名	幼児教育研究 C (児童家庭福祉)
担当教員	石田健太郎

●テーマ 「子育て支援の現在-子どもと家族をめぐる問いの立て方・語り方」

本科目は、家族扶養、とりわけ、子どもの養育に関する社会システムとしての児童家庭福祉のあり方についての基本的な知識の習得をするとともに、福祉社会学的な視点から、「子どもと家族」の関係を捉えなおすことを目的としています。いいかえると、子どもの養育に関する私的領域としての家族と公的領域としての国家・社会との関係を再考すること、となります。こうした再考が必要となる社会的背景は、①人口構造の変容、②家族扶養規範の変容、③子どもの位置づけの変容、④これらの変容をふまえた社会政策・社会保障・社会福祉の変容、です。以上のような研究関心および研究背景にもとづいて、本科目では具体的には、以下のような事項を分析・検討することを課題とします。

子育て支援の必要性が社会的に認識され、さまざまな施策と実践が展開されるようになってからすでに十数年が経ちました。しかし現実には、子育て支援の目的は何か、その施策と実践の核は何か、その効果は何か、といったような事項について必ずしも明らかにされないまま、国家的プロジェクトとしての子育て支援が進められています。地域や施設、学校の視点から、子育て支援のケース事例を取り上げ、そのニーズ分析、施策、援助方法などの検討を通じて、専門職が身につけるべき視点や援助のあり方を学びます。

●レポート課題と学習ポイント

課題1 以下にあげる2つの選択課題から一つを選択して、論述を行なってください。

2つの課題は、いずれもその目的として、児童家庭福祉のあり方に関する基本的な知識及び福祉社会学の視点の修得を行うことにあるため、テキストを通読した上で、論述を行うことが望ましいです。なお、教員の立場や考え方は、参考文献にあげた教員の執筆論文に示されています。端的には、現象の説明を徹底して社会的要因にもとづいて行うというものです。また、基本概念の定義や行政の公開している統計データなどをもちいながら、論述を行うといった、根拠にもとづいた論述が行われているかどうか、大切な評価ポイントです。

- ① 子育て支援における「ニーズ」について、家族規範・標準家族・規制・給付などの用語を用いながら、論述してください。

※使用テキストの(2)を主な学習教材として、その他テキスト・参考文献を用いながら論述をしてください。

- ② 児童虐待問題における「支援のあり方」について、リスク・貧困・ジェンダー・専門職な

どの用語を用いながら、論述してください。なお使用テキストの（3）を主な学習教材として、その他テキスト・参考文献を用いながら論述をしてください。

課題 2 あなたの住む自治体（市町村）で実行されている（または実行されてきた）子育て支援にかかわる政策や、子どもの育成や子育て支援にかかわる計画について、国や都道府県、自治体の資料をもとに調べ、その概要の紹介および課題を記述した上で、自身の評価を加えてレポートにまとめなさい。

※課題 2 のレポートの大きな目的は、ご自身の住む自治体の子育て支援の概要を掴むことにあります。子どもにかかわる仕事をしていても、自分が住んでいる自治体の具体的な施策の実施状況については知らないものです。しっかりとした調べ学習を行なった上で、分析・考察を行なってください。なお、本レポートでの取り組みは、演習科目における課題と連動しています。

●単位修得試験の評価基準

以下の 3 点から総合的に評価します。

- ①設問の内容を適切に把握し、キーワードや専門用語を用いながら、回答しているか。
- ②他者の考えと自身の考えを明確に分け、論述を行えているか。
- ③子ども家庭福祉や福祉社会学の視点にもとづいて、考察を行えているか。

●使用テキスト

- （1）武川省吾・森川美絵・井口高志・菊池英明（2020）『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房
- （2）松木洋人（2013）『子育て支援の社会学—社会化のジレンマと家族の変容』新泉社
- （3）上野加代子（2022）『虐待リスク—構築される子育て標準家族』生活書院

●参考文献

- （1）岩田正美（2016）『社会福祉への招待』放送大学教育振興会
- （2）山縣文治（2015）『少子社会の子ども家庭福祉』放送大学教育振興会
- （3）石田健太郎（2017）「家族らしくあることと保育」斎藤雅子編著『安心感と憧れを育てるひと・もの・こと』明星大学出版部
- （4）内田良（2009）『「児童虐待」へのまなざし—社会現象はどう語られるか』世界思想社
- （5）垣内国光・櫻谷真理子（2002）『子育て支援の現在—豊かな子育てコミュニティの形成をめざして』ミネルヴァ書房（現在、版元からの入手が不可となっています。インターネットなどで中古で安価に入手が可能です）

科目コード	012920
科 目 名	幼児教育研究D（音楽教育）
担 当 教 員	板野和彦

●テーマ「保育・幼児教育の現場で行われる音楽指導の原理と実際」

幼稚園教育要領の「表現」のねらいには以下の3つの項目が挙げられています。

- (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

そしてこのようなねらいにもとづいて、現場で行われている実際の指導においては歌唱つまり歌うことと、音楽に合わせて体を動かすダンスや遊戯、リトミックなどが多く取り上げられています。歌うことと音楽に合わせて体を動かすことを音楽教育の中心にすえ、合理的で体系的な方法を考案した人物としてコダーイとジャック＝ダルクローズを挙げることができます。

ハンガリーの音楽教育家ゾルタン・コダーイは、子どもたちの保育の中で歌うことを重要視したメソッドを考案した人物として知られています。コダーイの教育法であるコダーイ・メソッドは、子どもたちが生活の中で、身近な歌、わらべ歌などを注意深く聴き取り、歌うことにより美しいものを感じ取る能力、注意力、言語能力などを高めることを目指しています。

一方、スイスの音楽教育家であるエミール・ジャック＝ダルクローズは、リトミックと呼ばれる独自の音楽教育法を創案しました。この方法では子どもたちが音楽を聴き取り、主にそのリズムに合わせて身体運動を行うことにより、注意力、集中力、思考力、創造性などを高めることを目指しました。

ほとんど同時代に活躍したコダーイとジャック＝ダルクローズの教育法は、それまで専門家、あるいは演奏家の養成が中心であった音楽教育の方向を転換し、誰でもできる歌うことや動くことを中心とした活動により子どもたちの成長を促そうとしたところに独自性があると考えることができます。また音楽教育の目的についても演奏技術の習得、音楽的能力の伸長だけに終始することなく、人間の全体的能力の伸長を目指したこともまた後に大きな影響を及ぼしました。

本研究においては保育の中で行われる音楽に関する活動について考えてゆく際に、まずコダーイとジャック＝ダルクローズの教育法を取り上げ、その原理、方法、教材などの視点から検討してゆきたいと思います。このような方法により保育現場におけるより良い音楽指導のあり方を探ってゆくことが可能になると考えられます。

●研究の視点

- (1) 2つの教育法の原理の検討
- (2) 具体的な方法の検討
- (3) 2つの教育法において取り上げられる教材の検討

(4) 2つの教育法を保育の現場に適用するための検討

●レポート課題と学習ポイント

課題1

『音楽教育メソードの比較—コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C・M』の「第3章 エミール・ジャック＝ダルクローズのアプローチ」と「第4章 コダーイ・メソード」を精読し、2人の音楽教育家による教育法の共通点と相違について述べなさい。その際に、それぞれの方法の基礎となる方法（コダーイ：歌うこと、ジャック＝ダルクローズ：聴き取りと身体運動）、目指す人間像（どのような能力を伸張することを目指しているか）、具体的な方法、教材、2人の教育家の生涯についてなどの項目に分けて記述してください。第12章を参考にすると書きやすいかと思います。

課題2

以下の2問について解答しなさい。

①『音楽教育メソードの比較—コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C・M』の「第8章 幼稚園—第1学年—第2学年」のコダーイとジャック＝ダルクローズの部分をそれぞれ精読し、これらを参考にしながら保育園・幼稚園の5歳児を対象とした「歌うことを中心とした活動」と「聴き取り身体運動を行うことを中心とした活動」の指導案を作成しなさい。指導の時間は30分程度とする。形式は自由とする。（2000字程度）

②『音楽教育メソードの比較—コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C・M』のp.126からp.129には音楽指導の中で用いるリズムおよび音階音の難易度順の一覧が掲載されている。これを参考にしながら「子どもたちが歌いやすい旋律、打ちやすいリズム」という視点を重視して、教材の選択、指導の進め方について考えるところを述べよ。（2000字程度）

（レポート課題2については、①・②を1冊のレポートにまとめて提出）

●使用テキスト

- (1) L.チョクシー 他著 『音楽教育メソードの比較—コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C・M』 全音楽譜出版社 初版 1994
- (2) コダーイ芸術教育研究所 著 『わらべうた わたしたちの音楽—保育園・幼稚園の実践—』 明治図書出版 8版 2013
- (3) 神原 雅之 著 『ダルクローズ教育法によるリトミックコーナー』 チャイルド本社 初版 1987

●参考文献

- (1) 読譜力—伝統的な「移動ド」教育システムに学ぶ（単行本）
東川 清一（著）
- (2) ヴァージニア・ホッジ ミード著『ダルクローズ・アプローチによる子どものための音楽授業』ふくろう出版、2006

科目コード	013020
科目名	障害児者教育研究A（障害児者の学習・発達支援）
担当教員	佐々木敏幸

●テーマ 「知的障害/発達障害のある児童生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援の在り方について」

本科目では、共生社会のさらなる推進を目指すために、主として中枢系・認知(情報処理)機能の障害に対応する教育的支援に必要な知的障害、および ASD、LD、ADHD などの発達障害のある幼児児童生徒を想定し、障害特性に配慮した適切な教育について検討します。その上で、特別支援教育の制度として位置づけられている特別支援学校（知的障害）、特別支援学級（知的障害/自閉症・情緒障害）、通級による指導（発達障害）における指導や支援について重点的に考えます。また、小中学校の通常の学級に在籍する、発達障害のある児童生徒に対する指導支援の在り方も検討します。

具体的には、知的障害の幼児児童生徒を対象とする知的障害特別支援学校や知的障害特別支援学級、高機能自閉症等を対象とする自閉症・情緒障害特別支援学級、発達障害の児童生徒を対象とする通級による指導について、制度上の違いや特別の教育課程の編成について学びます。特に、特別支援学校学習指導要領における「自立活動」という領域について理解してほしいと考えています。

さらに、知的障害および発達障害に関する障害特性の理解と、それに基づいた適切な指導及び教育的支援の在り方について学びを深めることにより、障害特性に対応した一人一人の合理的配慮の内容や実施方法について理解して頂きます。

博士前期課程の院生の皆さんには、以下に挙げた使用テキスト及び参考文献等による自学自習を通して、①特別支援教育における制度及び教育課程の編成について、②知的障害/発達障害の幼児児童生徒に対する特別支援学校、特別支援学級における指導と合理的配慮の在り方、③知的障害/発達障害の幼児児童生徒に対する通級による指導、通常学級における指導と合理的配慮の在り方、④知的障害/発達障害の幼児児童生徒の個別の教育支援計画及び個別の指導計画に基づいた授業づくりや指導の実際などについての知見を深めて頂きたいと考えています。

●研究の視点

1. 特別支援教育の理念及び制度、特別の教育課程の編成
 - (1) 特別支援教育の理念と制度について
 - (2) 特別支援学校（知的障害者）と特別支援学校（知的障害者以外）の教育課程の編成について
 - (3) 特別支援学級及び通級による指導の教育課程の編成について
 - (4) 自立活動と学校教育における合理的配慮の実際について

2. 知的障害/発達障害の児童生徒の障害特性及び指導・支援

- (1) 知的障害
- (2) ASD
- (3) LD・ADHD
- (4) 個別の教育支援計画/個別の指導計画の考え方及び実際とそれらを踏まえた授業づくりについて
- (5) 障害特性に応じた合理的配慮について

●レポート課題と学習ポイント

課題1 特別支援教育の理念を概説した上で、特別支援教育の制度面について言及し、それぞれの教育課程の編成及び自立活動の在り方について論述しなさい。なお、自身の経験や事例などの具体例を基にしながら論じてよい。

(使用テキストおよび参考文献等を精読することで、特別支援教育の基礎基本について理解を深めていただくこと、さらに「論述」を期待していますので、自らの考えも含めてまとめて下さい。)

課題2 知的障害・ASD・LD・ADHD のいずれかを選んだ上で、障害特性や合理的配慮の内容例を踏まえながら、個別の教育支援計画/個別の指導計画の策定と共に自立活動の視点を踏まえた授業づくりについて、可能な限り实际的、具体的な内容で論述しなさい。

(課題1同様、院生自身の経験や考えを交えながら課題2について論述して下さい。)

●単位修得試験評価基

使用テキストおよび参考文献等を熟読し、院生自身の体験や意見、考察を含める形で論述すること。また、レポートの構成(小項目を立てる)を踏まえて論述すること。

●使用テキスト

- (1) 廣瀬由美子・石塚謙二 編著(2019)『アクティベート教育学07 特別支援教育』ミネルヴァ書房
- (2) 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2020)『特別支援教育の基礎・基本 2020 新学習指導要領対応』ジアース教育新社
- (3) 小貫悟・川上康則(2020)『テキストブック 授業のユニバーサルデザイン 特別支援教育・学級経営』一般社団法人日本授業UD学会

●参考文献

- (1) 佐々木正美(2008)『自閉症児のための TEACCH ハンドブック 改訂新版 自閉症療育ハンドブック』学研教育出版
- (2) 北川貴章・安藤隆男(2019)『「自立活動の指導」のデザインと展開 一悩みを成長につなげる実践32一』ジアース教育新社
- (3) 阿部利彦・赤坂真二・川上康則・松久眞実(2019)『人的環境のユニバーサルデザイン 子どもたちが安心できる学級づくり』東洋館出版社

- (4) 川上康則 (2024) 『まんがでわかる 初めて特別支援学級の担任になったら 教師と子どもが成長する学級経営』学研
- (5) 阿部利彦 (2017) 『授業のユニバーサルデザインと合理的配慮』金子書房
- (6) 佐々木敏幸 (2023) 『特別支援教育サポート BOOKS 広がれ！自分らしさを引き出す「おもしろ」図工・美術の授業』明治図書出版
- (7) 井上賞子・杉本陽子・小林倫代 (2021) 『改訂版 特別支援教育 はじめのいっぽ！』学研教育みらい
- (8) 文部科学省 (2018) 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）』開隆堂
- (9) 文部科学省 (2018) 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）』開隆堂

科目コード	013100
科目名	障害児者教育研究B（障害児者自立支援）
担当教員	島田博祐

●テーマ

「知的・発達障害児者の地域生活に向けての移行支援と生涯学習について」

障害児も成長し青年期・成人期・壮年期・老年期に至る過程を経過していくことから、学齢期において卒業後の自立した職業・地域生活および地域参加に結びつく教育内容を考慮することが大切であり、それを進めるうえでのキャリア教育が重要となる。キャリア教育は就労に必要なワークキャリアと地域で暮らし楽しむために必要なライフキャリアがあり（渡邊, 2013）、双方が必要である。ライフキャリア教育の内容には、性、余暇、触法などの問題を含む地域生活におけるリスク管理も入ってくる。

また、充実した地域生活を実現する為に、PCP（Person Centered Planning＝本人主体の計画）の視点に立つ個別支援計画が求められる。計画の基礎となるケアマネジメントにおけるニーズアセスメントで、障害のあるサービス利用者の適切な自己選択、自己決定が必要となるが、それには小中高の学校教育の中で得られた知識では不十分な面も出てくる。そこに余暇や社会参加の意味も加わり、QOL（生活の質）の向上にとっても重要であることから、知的・発達障害者の生涯学習を支援する必要性が増している。

本特講では、上記の観点を踏まえ、地域における充実した自立生活を目指すための移行支援や生涯学習支援について、考察を深めることを目的とする。

●研究の視点

- （１）青年期以降の知的・発達障害者の抱える問題、地域生活におけるリスクと課題
- （２）障害者の自立とは－障害者福祉と障害者の就労、地域生活支援
- （３）余暇・生涯学習に関する支援の必要性

●レポート課題と学習ポイント

課題 1

知的障害・発達障害児者の充実した職業生活、地域生活を支える仕組みや現状に関し概説するとともに、教育領域におけるキャリア教育、福祉領域における地域生活支援のあり方も併せ、日本における知的・発達障害児者の移行支援及び卒業後の地域生活支援の課題について、生涯発達支援の観点から思うところを述べよ。

課題 2

知的障害児者におけるライフキャリアの側面としての余暇、生涯学習に関する支援の必要

性に関し、実践例の紹介なども含め、今後の課題に関し、思うところを述べよ。

●使用テキスト

- (1) 小林繁・松田泰幸(編集)、『月刊社会教育』編集委員会 『障害をもつ人の生涯学習支援 インクルーシブな学びを求めて 24 の事例』 旬報社 2021
- (2) 日本発達障害学会監修 『キーワードで読む発達障害研究と実践のための医学診断/福祉サービス/特別支援教育/就労支援 福祉・労働制度・脳科学的アプローチ』 福村出版 2016
- (3) 橋本和明編著 『発達障害と思春期・青年期 生きにくさへの理解と支援』明石書店 2009

*レポート執筆のヒント：テキスト(2)は関連事項に関する事典として、テキスト(1)(3)は事例紹介として拝読いただければ、レポートのイメージが具体化すると思います。余裕があるなら、以下の参考文献もお読みください。

●参考文献

- (1) 上田敏 『ICFの理解と活用』 萌文社 2005 注) 障害児者教育研究演習Bで使用
- (2) 小林亜津子著 QOL ってなんだろう? ちくまプリマー新書 2018
- (3) 渡辺明弘編著 『みんなのライフキャリア教育』 2013 明治図書
- (4) 小林繁著 『障害を持つ人の学習権保障とノーマリゼーションの課題』 れんが書房新社 2010 注) 博士課程「障害児者教育研究演習B」で使用
- (5) 梅永雄二・島田博祐・森下由規子編著 『みんなで考える特別支援教育』北樹出版 2019 注) 障害児者教育研究演習B(障害児者自立支援)と共通
- (6) マグナス家族編 高橋亮・島田博祐監訳『ある家族の愛の物語』 初版 2004 文化書房博文社

科目コード	013200
科 目 名	障害児者教育研究C（小児保健）
担 当 教 員	星山麻木

●テーマ 「乳幼児期から学童期の特別支援教育の課題」

障がい児教育から特別支援教育への転換期にあたる現在、特別支援教育の課題は山積しています。そこで、この科目では、特別な支援を必要とする子どもたちのなかでも、特に乳幼児期から学童期の子どもたちの支援に注目して、特別支援教育の課題と支援方法について多角的に学びます。教育、福祉、医療との連携、或いは連携を促すための実践的な支援方法や工夫など、自ら課題を見つけ、考察を深めます。

●研究の視点

- （１）乳幼児期から学童期の特別支援教育の課題を見つける
- （２）支援方法を見出す
- （３）自らの立場と社会的な役割を考える

●レポート課題と学習ポイント

課題１ 現在置かれている自らの立場や社会的役割を考えながら、障がいのある子どもや保護者に関する特別支援教育の課題について、考察しなさい。

まず、現在の特別支援教育の概要について理解してください。文部科学省のHPから「特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）」を読むとだいたいの流れが理解できます。次にクリスティ・プリティフロンザック『こどものニーズに応じた保育』、或いは新聞、インターネット、文献などから、障がいのある子ども、特に乳幼児期から学童期の子どもと保護者に関する特別支援教育の課題を見つけてください。ご自分の興味の課題はなるべく1つに絞ってください。次に現在のご自分の立場や社会的役割を考え、その課題について、提言をしてください。

課題２

乳幼児期から学童期の特別支援教育の課題に対して、実践的な支援方法を述べなさい。

課題２では、課題１で選択した課題について、どのようにしたら、その課題をより良い方向に導けるか、考察を深めてください。具体的な支援方法や教育方法の例について、星山 麻木『障害児保育』『この子は育てにくい、と思っても大丈夫 ～生まれてきてくれて、ありがとう 子どもに伝えたいあなたのために』、藤崎真知代『育児・保育現場での発達とその支援』などを参考に、最新の研究や方法論など、例を引用しながら述べてください。なるべく実践的

な支援方法を自分なりに考えてください。

●使用テキスト

- (1) クリスティ・プリティフロンザック 著『こどものニーズに応じた保育』 二瓶社 2011
- (2) 星山 麻木 『この子は育てにくい、と思っても大丈夫 ～生まれてきてくれて、ありがとう 子どもに伝えたいあなたのために』 河出書房新社 2017
- (3) 星山 麻木 『障害児保育ワークブック ―インクルーシブ保育・教育をめざして』 萌文書林 2019

●参考文献

- (1) 星山麻木 『子どものポートフォリオを作ろう』 東洋館出版社 2006
- (2) 文部科学省 『児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン』 東洋館出版社 2004

2. 演習科目（S R 科目）

科目コード	014120
科目名	授業研究演習 A（歴史・理論）
担当教員	廣嶋龍太郎

●テーマ 「教育思想、教育史研究 ―現在の教育的課題についての原理的考察―」

本演習においては、教育の考え方や理念、歴史を検討し、現在の教育的課題に重ね合わせながら討論をしていきます。今日の教育をめぐる多様な論議は、時代や社会的背景は異なるにせよ、視点をかえていえば原理的にはすでに論じられてきたものであることが多くあります。このことを演習のなかで実感し、過去から学ぶことの大切さの認識を深めていくことをねらいとしています。また、通信制大学院生は、大学時代に教育学を専門的に学ばれていない方も多くいることを考慮して授業したいと考えています。

なお、本テーマは「授業研究 A（歴史・理論）」のテーマにも関連して設定されています。

●研究の視点

- （１）教育の考え方
- （２）西洋の教育観の歴史
- （３）日本の学校教育の歴史
- （４）今日の教育的課題

●講義計画（面接授業）

上述の研究の視点にある（１）（２）（３）（４）を解説し、討論していきます。資料はあらかじめ、こちらで用意します。テキストで演習に用いる内容は、明星 LMS でも配信しますので、持参しなくても構いません（可能であれば（２）のテキストをご持参いただくと、発展的に調べやすいでしょう）。原典やデジタル化史料なども活用し、分かりやすく説明したいと思っています。

●レポート課題と学習ポイント

自身の研究課題について、教育的意義を考察した上で、歴史的経緯と結び付けて説明しなさい。

このレポート課題の作成に際しては、あらかじめ各自の研究計画などの準備があっても構いませんが、提出については面接授業受講後であることが望ましいと考えています。スクーリング中の討議を通じて、「教育的意義」や「歴史的経緯」の考察は繰り返し行いますので、各自の

教育観を深化させた上で、レポート課題を作成していただける見通しです。

スクーリング中はテキストの一部を用いた演習を行います。演習中やスクーリング後にご自身の研究と関連のあるテキスト内容を発展的に学んでいただくと、理解がさらに深まるでしょう。なお、教育思想（史）の分野で研究論文を執筆される予定の方は、（３）のテキストの体裁を参考にすることを勧めます。

●使用テキスト

- （１）上坂保仁・神林寿幸・廣嶋龍太郎編著『ひとりでも学べる教育の理念・思想・歴史』八千代出版、2023 年
- （２）乙訓稔『西洋近代幼児教育思想史』第二版、東信堂、2010 年
- （３）坂越正樹監修『教育的関係の解釈学』東信堂、2019 年

●参考文献

- （１）日本ペスタロッチー・フレーベル学会編『増補改訂版 ペスタロッチー・フレーベル事典』玉川大学出版部、2006 年
- （２）今井康雄『教育思想史』有斐閣、2009 年
- （３）乙訓稔『西洋現代幼児教育思想史』東信堂、2009 年
- （４）米田俊彦『近代日本教育関係法令体系』港の人、2009 年
- （５）佐々井利夫・樋口修資・廣嶋龍太郎共著『教育原理』明星大学出版部、2012 年
- （６）佐藤環編著『日本の教育史』あいり出版、2013 年
- （７）リン・ハント著、長谷川貴彦訳『なぜ歴史を学ぶのか』岩波書店、2019 年
- （８）東京大学教養学部歴史学部会編『東大連続講義 歴史学の思考法』岩波書店、2020 年
- （９）幼児教育史学会監修、太田素子・湯川嘉津美編『幼児教育史研究の新地平〈上巻〉—近世・近代の子育てと幼児教育—』萌文書林、2021 年
- （１０）E.H.カー著、近藤和彦訳『歴史とは何か 新版』岩波書店、2022 年

科目コード	014130
科目名	授業研究演習B（実践・評価）
担当教員	鄭谷心

●テーマ 「教育課程の編成・実施

ーカリキュラムマネジメントの考え方を生かしてー」

今日、各学校は、学習指導要領などの教育課程の基準を踏まえつつも、自律性や主体性を発揮し、教育の質を高め、子どもたちの資質や能力をより豊かに育成していくことが期待されています。そのためには、各学校において、教育課程を基幹として資源を十分に活用しながら教育活動の計画・実施・評価・改善を適切に行うことが必要です。

この授業では、まず、次期学習指導要領改訂に向けて公表された、中央教育審議会の諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」（令和6年12月25日）の問題・課題意識を受け止め、今日の学校教育の改善として求められるものを検討した後、学校の教育課程における目的と目標の意義を考えます。次に、2017・2018・2019(平成29・30・31)年改訂の学習指導要領と2019(平成31)年改訂指導要録における理念や主旨をおさえながら、世界のカリキュラム改革からの示唆を把握し、よりよい人生や社会を創造するために必要な資質や能力を育成する教育の進め方について共に考えていきます。その際、持ち寄った事例についてカリキュラム・マネジメントをはじめ様々なカリキュラムに関する理論を生かしながら分析を行い、改善の視点を探っていきます。

●授業計画（面接授業）

- (1) 教育課程を考える背景：Society5.0における学校教育の在り方
- (2) カリキュラム編成のための視点：教育目的と教育目標
- (3) 平成29・30・31年改訂学習指導要領と平成31年改訂指導要録のポイント
- (4) 世界のカリキュラム改革からの示唆
- (5) 子どものウェルビーイングと学校教育
- (6) カリキュラム・マネジメントの考え方
- (7) 資質・能力を育てる授業・評価
- (8) 持ち寄った事例の紹介
- (9) 事例分析
- (10) レポート作成に向けて

* 本授業（面接授業）の際には、教育課程又は教科等の指導計画等の事例を持参してください。

●レポート課題と学習ポイント

課題：学校の教育課程の工夫改善の視点

本授業（面接授業）及びテキストによる学習をもとに、日本の学校教育の現状・課題と世界のカリキュラム改革の動向を踏まえた上で、これからの教育の方向性を考えつつ、学校における教育課程とそれを具体化した指導計画、授業、評価までを視野において、それらを工夫改善する視点についてまとめてください。その際、論旨を明快にすること、自分の意見と他者の意見を区別して記述すること、自分の意見を述べる際には必ず理由や根拠を示すこと、引用は出典を明示することに配慮してください。

●使用テキスト

- (1) 田中耕治編『よくわかる教育課程（第2版）』 ミネルヴァ書房 2018
- (2) 木村裕ほか『子どもの幸せを実現する学力と学校—オーストラリア・ニュージーランド・カナダ・韓国・中国の「新たな学力」への対応から考える』 学事出版 2019
- (3) 田村知子ほか『子どもと教師のウェルビーイングを実現するカリキュラム・マネジメント』 ぎょうせい 2024

●参考文献

- (1) 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』平成28年12月21日
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm
- (2) 文部科学省『小学校学習指導要領解説総則編』 東洋館出版社 平成29年
『中学校学習指導要領解説総則編』 東山書房 平成29年
『高等学校学習指導要領』 東山書房 平成30年
- (3) 安彦忠彦 『改訂版 教育課程編成論 —学校は何を学ぶところか—』 財団法人放送大学教育振興会 2006
- (4) 田村知子 『実践・カリキュラムマネジメント』 ぎょうせい 2011
- (5) 田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵 『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』 ぎょうせい 2016
- (6) 田中耕治編『グローバル化時代の教育評価改革—日本・アジア・欧米を結ぶ』 日本標準 2016
- (7) 天笠茂『平成29年改訂小学校（中学校）教育課程実践講座 総則』 ぎょうせい 2017
- (8) 日本カリキュラム学会『現代カリキュラム研究の動向と展望』 教育出版 2019
- (9) 村川雅弘『with コロナ時代の新しい学校づくり 危機から学びを生み出す現場の知恵』 ぎょうせい 2020
- (10) 村川雅弘『子どもと教師の未来を拓く総合戦略55』 教育開発研究所 2021
- (11) 鄭谷心『ウェルビーイング（Well-being）を高める教育方法に関する基礎的研究—国際バカロレア（IB）における「探究」に焦点をあてて—』琉球大学教育学部『琉球大学教育学部紀要』第103号 pp.17-28 2023

科目コード	014140
科 目 名	授業研究演習C（情報教育）
担 当 教 員	今野貴之

●テーマ「理論と実践の往還」

「ICT の教育的活用」

「情報教育に関する論文の読み方」

「研究方法論の選択」

本スクーリングでは、情報教育に関する諸学問の論文や、情報教育の資料を読むことを通して、テーマへの理解を深めることを目指します。取り上げるテーマは、例えば、教育の諸問題における情報通信技術（Information and Communication Technology 以下 ICT）の活用の可能性と限界や、ICT が可能にする真正な学習などです。演習で取り上げる論文は授業時に適宜配布します。情報教育に関する論文・資料を読むための基本的知識や方法論の理解も深めることを目指します。

また、自分は世の中をどのように見るのかという「認識論」をふまえて、情報教育に関わる研究を解きほぐしていきます。これにより情報教育に限らず、自身の研究分野における論文の捉え方や読み方、執筆者の物事の見方まで深く読めるようになることも目指します。

●研究の視点

- （１）学習指導要領にみる情報教育
- （２）教育の諸問題における ICT の活用の可能性と限界
- （３）情報モラル教育のあるべき姿
- （４）コンピュータに支援された学習
- （５）ICT が可能にする真正な学習
- （６）認識論

●演習計画

上記の６点の研究の視点について、情報教育の論文や教科書、各種資料をもちいて ICT の教育的活用に関する講義や討論を行い、ICT が教育の基本問題にどこまで貢献し得るのか、その限界は何かを議論します。また、自身の問題意識を出し合い、それぞれの修士論文テーマと関連させた議論もします。

●レポート課題と学習ポイント

レポート課題：教育のあらゆる場面で ICT の整備が進んでいます。このような状況において、教授者として ICT を用いる際の考え方、留意点について自身の認識論を明確にして記述しなさい。さらに、その状況を研究フィールドとする場合（研究者として捉える場合）の留意点につ

いても記述しなさい。

学習ポイント：教授者が ICT を用いて授業を行うことに加え、学習者自身も ICT を用いて学習をすすめる状況が整備されつつあります。このような状況では、教授者の立場は知識を伝達するのみではなくなっています。学習者の学びをどのように促すのかを参考文献や先行研究を用いて理由と根拠を示しながら考察してください。

なお、スクリーングではあらかじめテキストを読んだことを前提として授業を進めていきます。また、修士論文のテーマと関連させていくことを目指します。自分の修士論文のテーマに関する参考文献や論文を用意してください。

●使用テキスト

1. 大島 純・千代西尾祐司【編】『主体的・対話的で深い学びに導く学習科学ガイドブック』北大路書房 2019
2. 久保田賢一・今野貴之【編著】『主体的・対話的で深い学びの環境と ICT アクティブ・ラーニングによる資質・能力の育成』（新装版）東信堂 2022
3. 高嶽 裕樹・田嶋 知宏「情報メディアの活用〔新訂〕」放送大学教育振興会 2022

●参考文献

1. 野村康【著】『社会科学の考え方：認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会 2017
2. 浦上 昌則・脇田 貴文【著】心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方 東京図書 2008
3. 能智 正博【監修】秋田 喜代美・藤江 康彦【編】はじめての質的研究法—教育・学習編 東京図書 2007

科目コード	014103
科 目 名	授業研究演習 D（教育社会学）
担 当 教 員	須藤康介

●テーマ 教育調査

児童・生徒を対象とした質問紙調査（いわゆるアンケート調査）の実施方法を学ぶとともに、調査で得られたデータを分析するための手法を身につける。具体的には、神奈川県公立中学生約 3000 名を対象とした実際の調査データの分析を行い、各自が簡単なレポートを作成する。教育社会学の代表的な研究手法を学ぶことになる。

●研究の視点

今後の研究で質問紙調査を実施する可能性がある学生、実施済みの調査データの分析を行う可能性がある学生は、本科目の履修を推奨する。質問紙調査や学力調査を分析できるようになる。また、調査データを分析した論文を読めるようになる。

●講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 教育調査の意義
- 第 3 回 教育調査の流れ
- 第 4 回 サンプルングの論理
- 第 5 回 基礎統計量
- 第 6 回 クロス集計の原理
- 第 7 回 クロス集計の手順（実習）
- 第 8 回 クロス集計の工夫（実習）
- 第 9 回 論文の講読「対人能力」
- 第 10 回 分散分析の手順（実習）
- 第 11 回 相関分析の手順（実習）
- 第 12 回 回帰分析の原理
- 第 13 回 重回帰分析の手順（実習）
- 第 14 回 論文の講読「自己否定感」
- 第 15 回 レポート準備

●レポート課題と学習ポイント

- | | |
|----|---|
| 課題 | スクーリング期間の終了後に、各自が問題関心に基づいて、簡潔な分析レポートを作成する。詳細は第 15 回で説明する。 |
|----|---|

統計分析の初学者がいることを想定し、基礎から省略せず授業を進める。ただし、履修にあたり、中学校レベルの数学と、文系大学生レベルの PC 操作の習熟が前提となる。授業では統計ソフト SPSS がインストールされているノート PC が必要となるので、各自持参すること。SPSS の学生版 (Grad Pack) を購入して自身のノート PC にインストールしてくるか、SPSS インストール済みのノート PC を通信制大学院事務室から事前に借りておくかのどちらかとなる。

●使用テキスト

- (1) 須藤康介・古市憲寿・本田由紀 2024『新版 文系でもわかる統計分析 (電子版)』朝日新聞出版。
- (2) 大谷信介ほか編 2023『最新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房。

●参考文献

秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学編 2005『教育研究のメソドロジー』東京大学出版会。
神林博史 2019『1 歩前からはじめる「統計」の読み方・考え方 第2版』ミネルヴァ書房。
筒井淳也ほか編 2015『計量社会学入門』世界思想社。
寺島拓幸・廣瀬毅士 2022『心理学・社会学のための SPSS によるデータ分析』東京図書。

社会調査協会は、年 2 回『社会と調査』という学術雑誌を刊行している。最新の調査動向が掲載されているので、参考になる。大学図書館などで閲覧できる。

科目コード	014160
科目名	授業研究演習 E（教育心理学）
担当教員	杉本明子

●テーマ 「認知心理学と教授・学習研究」

この科目では、認知心理学の基本的な知識を習得するとともに、認知心理学的な視点から教授・学習を捉え直すことを第 1 の目的としています。「人間が様々な事柄を学習し知識を構築するとき、頭の中ではどのようなメカニズムが働いているのか」「人間の認知構造や認知過程に基づいて効果的に教育を行っていくためには、どのような教授法を用いるのがよいのか」というテーマのもとに、教授・学習に関わる基本的な認知心理学の知見について講義を行うとともに、受講生自らが様々な教授法を検討し、心理学の学習理論に基づいた効果的な教授法を考案します。第 2 の目的は、心理学の分野の主な研究方法（実験法・調査法・観察法・面接法）とそれらを用いた具体的な研究例を概観した上で、受講生各自が自分の研究テーマに関してどのような研究方法を用いて研究を進めていくべきかについて考察することです。受講生各自が今後の研究計画（研究方法）について発表し、クラス全体で討論します。

●研究の視点

- （1）認知心理学の基本的な教授・学習理論の理解
- （2）学習理論に基づいた教授法の検討
- （3）研究の方法論の検討

●講義計画

1. 認知心理学の成立の歴史と方法
2. 情報処理モデルと記憶・知識の獲得
3. 言語学習理論と外国語教授法
4. 様々な教授法の検討と授業案の考案
5. 心理学の主要な研究方法と研究例の概観
6. 受講生自身の研究計画（研究方法）の検討

●レポート課題と学習ポイント

次のいずれかの課題から 1 つを選択し、レポートを作成してください。

1. 心理学の学習理論に基づき、あなたが効果的だと考える教授法について記述しなさい。授業で取り扱った認知心理学の知見、様々な学習理論やそれに対応する教授法を参考にして、教科学習においてあなたが効果的であると考えた教授法について考察してください（教科は各自自由に選択してください）。その際、あなたが依拠する学習理論を明確に述べてください。また、なぜその教授法が効果的であると考えたのかについても説明してください。

2. 主要な研究の方法論とあなた自身の研究テーマに関する研究方法について記述しなさい。

授業で概観した心理学的な研究方法について考察し、あなた自身が今後どのような方法を用いて研究を進めていくのか（研究計画）について記述してください。

●使用テキスト

- (1) 杉本明子・西本絹子・布施光代（編著） 『理論と実践をつなぐ教育心理学』 みらい 2019
- (2) 村井潤一郎（編著） 『心理学研究法』（第2版） サイエンス社 2021
- (3) 佐藤郁哉 『質的データ分析法：原理・方法・実践』 新曜社 2008

●参考文献

- (1) 箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋（編） 『認知心理学』 有斐閣 2010
- (2) 山田剛史・村井潤一郎 『よくわかる心理統計』 ミネルヴァ書房 2004
- (3) 下山晴彦・能智正博（編） 『心理学の実践的研究法を学ぶ』 新曜社 2008

科目コード	014170
科目名	授業研究演習 F（教育行財政）
担当教員	神林寿幸

■テーマ 「教員のウェルビーイングをめぐる政治・行政・経営」

日本では「学校の働き方改革」の一環として、教員のウェルビーイング実現に向けた取り組みが推進されている。これらの取り組みは、中央政府や地方政府の政治・行政レベル（ポリシーレベル）、学校経営レベル（マネジメントレベル）、教員個人のレベルと、マルチレベルに展開されている。

本科目では、こうしたマルチレベルで行われている教員のウェルビーイング実現に向けた取り組みを題材に、教育行政学や学校経営論の研究で用いられる基本概念や理論を学ぶ。教育学や教育行政学は、教育を対象とする学問領域であり、これらの領域では政治学、行政学、社会学、心理学といった関連学問の概念や理論を参照した分析が行われる。本科目では特に、政治学、行政学、人的資源管理論、産業・組織心理学、産業保健学の領域における基本概念や理論に焦点を当て、関連する文献を講読する。これによって、マルチレベルで展開される教員のウェルビーイング実現に向けた取り組みを、多面的に分析・考察できる力を養うことを目指す。

また、演習科目としての性格を踏まえ、授業内ではデータ分析の実施と分析結果の解釈・議論を行う時間を設ける。具体的には、OECD が 5 年ごとに実施する「国際教員指導環境調査」の個票データを用いて、演習で学んだ概念や理論をデータで検証する作業を行う。教育行政や学校運営においてデータの利活用が進む現状を踏まえ、演習を通じてデータ分析を身につけ、客観的な根拠に基づいた議論ができるようになってもらいたい。ただし、データ分析を本格的に行うには、社会調査法、統計学、多変量解析演習などの体系的なトレーニングが必要であり、時間の制約もあるため、本演習ではすべてを網羅することはできない。データ分析についてさらに学びたい場合は、他の関連科目の履修や、統計解析ソフトを提供する企業や国内外の大学が開催するオンラインセミナーへの参加、自学自習を推奨する。

本演習の到達目標は次の 2 点である。第一に、政治学、行政学、経営学の基本概念や理論に対する理解を深め、これらの学問的見地と理論に基づいて社会現象を分析し、教育行政や学校経営について議論できるようになること。第二に、理論とデータに基づいて教員のウェルビーイングに関わる状況を分析し、今後の教員のウェルビーイング増進に関わる政治・行政・経営の展望を持つことができるようになることである。

■演習計画

参加者は、事前に講読文献に示した論文（いずれもインターネットで入手可能）を読み、各文献の内容を把握するとともに、論点を提示できるように準備すること。演習では事前学修前提に、受講生の間で議論する。

具体的には、演習は次のように進める予定である。事前課題として講読する文献についても、

あらかじめ示す。また、演習内でデータ分析を行う時間を設定するため、演習当日には、ExcelがインストールされたPCを参加者に持参していただきたい。

I 教員のウェルビーイング増進に関する取り組み①—ポリシーレベル

- 1 教員の勤務環境に関する国際比較（講読文献1：神林 2015）
- 2 データ演習①—TALIS2018を用いた教員の勤務状況・勤務環境に関する分析
- 3 戦後日本の教育政治アクター（講読文献2：小玉・荻原・村上 2016）
- 4 教育行政の政府間関係（講読文献3：青木 2000）
- 5 データ演習②—地方公共団体による「学校の働き方改革」の実施状況分析

II 教員のウェルビーイング増進に関する取り組み②—マネジメントレベル

- 6 リーダーシップ（使用テキスト：田中・高原編著 2020、第5章）
- 7 校長のリーダーシップ（講読文献4：露口 2004）
- 8 管理職によるワークライフバランス支援（講読文献5：高村 2018）
- 9 ソーシャル・サポート
- 10 データ演習③—校長・同僚からの支援と教員のウェルビーイングの関係

III 教員のウェルビーイング増進に関する取り組み③—個人レベル

- 11 ストリート・レベルの官僚である教員のストレス（講読文献6：奥村ほか 2019）
- 12 タイムマネジメントスキル（講読文献7：神林 2022a）
- 13 援助要請（講読文献8：神林 2022b）
- 14 データ演習④—児童生徒の特性と教員のウェルビーイングの関係
- 15 まとめと振り返り

■レポート課題と評価

レポートの作成・提出は、演習参加後（演習中に提出期限は指示する）とし、レポート課題は、演習の中で提示する。なお、レポートの評価に当たっては、レポート課題の内容を理解し、当該課題への考察が論理的かつ客観的に行われているかを基準とする。

■講読文献 ※事前に読み内容を把握したうえで、演習に参加すること

- (1) 神林寿幸（2015）「周辺の職務への従事が日本の教員の多忙に与える影響の再検討—TALIS2013年調査の国際比較を通じて—」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』63集2号、23-43. Retrieved from <https://cir.nii.ac.jp/crid/1050001202730819200>
- (2) 小玉重夫・荻原克男・村上祐介（2016）「教育はなぜ脱政治化してきたか」『年報政治学』67巻1号、31-52. Retrieved from https://doi.org/10.7218/nenpouseijigaku.67.1_31
- (3) 青木栄一（2000）「教育行財政の中央—地方関係における都道府県教育委員会の行動と機能—公立学校施設整備事業を題材にして—」『日本教育行政学会年報』26号、57-69. Retrieved from https://doi.org/10.24491/jeas.26.0_57
- (4) 露口健司（2004）「校長のリーダーシップが教師の職務態度に及ぼす影響プロセス—教師の個人的価値観に着目したモデルの検証—」『日本教育経営学会紀要』46号、93-105. Retrieved from https://doi.org/10.24493/jasea.46.0_93
- (5) 高村静（2018）「構成員のワーク・ライフ・バランスにつながる管理職の行動特性」『日

本労働研究雑誌』691号、67-81. Retrieved from <https://www.jil.go.jp/institute/zasshi/backnumber/2018/special/pdf/067-081.pdf>

- (6) 奥村太一・北島正人・森慶輔・宮下敏恵・増井晃・西村昭徳（2019）「小中学校教師の長時間労働は離職意思につながるか——バーンアウトと対教師ストレス反応を媒介変数として——」『学校メンタルヘルス』22巻2号、150-161. Retrieved from https://doi.org/10.24503/jasmh.22.2_150
- (7) 神林寿幸（2022a）「第6章 NITS 研修受講者のタイムマネジメント意識の特徴、教員のタイムマネジメント意識が労働時間に与える影響」独立行政法人教職員支援機構編『学校管理職として知っておきたい教員の働き方思考』（令和3年度学校運営の行動変容を促進する要因の解明に関する調査研究プロジェクト報告書）、51-59. Retrieved from https://www.nits.go.jp/research/report/files/2021_report_004.pdf
- (8) 神林寿幸（2022b）「第7章 被援助志向性が教員の労働時間に及ぼす影響——NITS 研修受講者と全国の教員を対象とした調査の分析——. 独立行政法人教職員支援機構編『学校管理職として知っておきたい教員の働き方思考』（令和3年度学校運営の行動変容を促進する要因の解明に関する調査研究プロジェクト報告書）、60-66. Retrieved from https://www.nits.go.jp/research/report/files/2021_report_004.pdf

■参考文献

- (1) 真淵勝（2020）『行政学 新版』有斐閣
- (2) 北村亘・青木栄一・平野淳一（2024）『地方自治論——2つの自律性のはざままで——〔新版〕』有斐閣
- (3) 田中健吾・高原龍二編著（2020）『産業・組織心理学 TOMORROW』八千代出版
- (4) 村上祐介・橋野晶寛（2020）『教育政策・行政の考え方』有斐閣
- (5) 伊藤修一郎（2002）『自治体政策過程の動態——政策イノベーションと波及——』慶應義塾大学出版会
- (6) 青木栄一（2004）『教育行政の政府間関係』多賀出版
- (7) 露口健司（2008）『学校組織のリーダーシップ』大学教育出版
- (8) 神林寿幸（2017）『公立小・中学校教員の業務負担』大学教育出版
- (9) 武石恵美子編著（2012）『国際比較の視点から 日本のワーク・ライフ・バランスを考える——働き方改革の実現と政策課題——』ミネルヴァ書房
- (10) 佐藤博樹・武石恵美子編（2017）『ダイバーシティ経営と人材活用——多様な働き方を支援する企業の取り組み——』東京大学出版会

科目コード	014200
科目名	幼児教育研究演習 A（保育）
担当教員	齋藤政子

●テーマ

「保育者の専門性とは何か」

「保育の質の検討」

「世界の保育の現状と日本の保育の課題」

「保育実践研究の方法論について」

幼児教育研究 A（保育）を通して学ぶことと、幼児教育研究演習 A（保育）で学ぶことは関連しています。保育と子育ての歴史や現状の把握、あるいは、親のおかれた社会状況の分析を抜きにして、保育研究を行うことはできません。

幼児教育研究 A（保育）では、わが国の保育・子育てを通史的にとらえながら、子育て困難を抱える家族の実態を把握し、「保育の質」に関する議論を概括するところに力点を置いています。幼児教育研究演習 A（保育）では、研究の方法論に関する学習を基礎に、「保育」「子育て」に関する研究を概観し、さらに「保育の質」向上に向けて各国の動向を把握するための演習を行っていきます。

その際、日本の保育のあり方が、世界の先進国の中でどのような位置にあり、何が課題となっているかについても目を向けていきたいと思います。

また、主体形成としての保育のあり方についても議論していきたいと思います。子どもという主体と保育者という主体が相互に響きあい作り上げていく保育とはどのようなものなのか、実践検討を通して議論を深めていきましょう。

なお、貴重な演習の機会ですので、保育・幼児教育研究の方法論についての議論も進めたいと思います。3 冊挙げたテキストの第一部または第 1 章については、演習日当日に発言を求めますので必ず読んできてください。

●演習の講義計画

1. 問題を設定すること — 問いの立て方、問いと仮説
2. 「保育」「子育て」を対象とした研究の方法
3. 量的研究と質的研究の方法論について
4. 文献レビューについて
5. 世界の保育・幼児教育改革と日本の課題
6. 日本の「保育の質」－研究「（保育）条件と（保育）内容」という視点
7. 良質な保育を支える保育者の専門性とは？
8. 日本の保育実践と乳児集団保育の役割－3 歳未満児保育の成果と課題－
9. 「子どもとつくる保育」とは－4 歳児保育の実践検討を通して－

10. 調査に見る「子育て」の現実と保護者支援・地域支援
11. 幼保小連携の意義と取り組みの現状及び課題
12. 再び自分の問いを立て直す

●レポート課題と学習ポイント

次の三つの中から一つを選択してレポートする。

- ①現代の日本社会において、あるいは、日本の乳幼児の発達において、保育が果たす役割についてテキストを参考にして論じなさい。
- ②世界の保育の現状と日本の保育の課題について論じなさい。世界の保育の現状と日本の保育の課題について論じなさい。掲載されている国だけでなく、ほかの国を調べて分析して下さってもかまいませんが、根拠を示して論じてください。
- ③「子どもとつくる保育」とは、どんな保育でどんなことが大事にされていると考えるか、論じなさい。

スクーリングでは、修士論文のテーマと関わらせながら問題意識を出し合い、それぞれのテーマについて検討していきたいと思います。あらかじめ、テキストを読んできていただいて議論しながら進めていきたいと思います。参考文献は、ここにあげられたものだけではありません。学内のデータベースを有効に活用してください。

●使用テキスト

- (1) 齋藤政子 編著 『子どもとつくる4歳児保育』 ひとなる書房 2016
- (2) 近藤克則 著 『研究の育て方 - ゴールとプロセスの「見える化」』 医学書院 2018
- (3) 泉千勢 編著 『なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのか 子ども豊かな育ちを保障するために』 ミネルヴァ書房 2017

●参考文献

- (1) 大宮勇雄『保育の質を高める』ひとなる書房 2006
- (2) 日本保育学会編 『保育学講座①保育学とは』 東京大学出版会 2016
- (3) 津守真 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房 1997
- (4) 諏訪義英 『日本の幼児教育思想と倉橋惣三』 新読書社 2007
- (5) H.R.シャファー・無藤隆 他訳 『子どもの養育に心理学がいえること』 新曜社 2001
- (6) 『倉橋惣三文庫一幼稚園真諦』 フレーベル館 2008
- (7) 無藤隆・やまだようこ他 『質的心理学』 新曜社 2004
- (8) 日本保育学会編『保育学講座4保育者を生きる 専門性と養成』 東京大学出版会 2016
- (9) 遠藤利彦・坂上裕子 編 『はじめての質的研究法』 東京書籍 2007
- (10) 箕浦康子 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房 2000
- (11) 穴戸健夫『日本における保育園の誕生』 新読書社 2014
- (12) 大日向雅美『母性の研究 その形成と変容の過程：伝統的母性観への反証』 日本評論社 2016

科目コード	014210
科目名	幼児教育研究演習B（児童文化）
担当教員	羽矢みずき

●テーマ「児童文化の研究」

最近の児童文化研究は、保育現場などで使われる絵本、紙芝居、児童文学、玩具などの児童文化財に関する考察という従来のあり方が大きく変化しようとしています。子どもが衣食住や、自然環境や都市景観などの諸文化と関わりながら、どのように成長していくのかということを考える場に変化しています。このような児童文化研究の新たな動きを視野に入れながら、児童文化財と子どもの関わりについて考察を深めていきます。また、児童文学における歴史的変遷を概観するとともに、子どもを取り巻く社会における問題を作品から読み取り考えます。

●研究の視点

- （１）絵本・児童文学について、それぞれの表現の特徴やそれぞれが持つ歴史への理解
- （２）絵本・児童文学と子ども読者との関わり
- （３）子どもの読書の特質

●講義計画

- | | | |
|-----------------|------------------------|---------------|
| 1. 児童文化とは何か | 2. 柳田國男の「子ども観」 | 3. 近代の絵本史 |
| 4. 絵本における子ども観 | 5. 『コドモノクニ』から『こどものともへ』 | |
| 6. 近代児童文学の誕生 | 7. 巖谷小波の児童文学 | 8. 『赤い鳥』と童心主義 |
| 9. 新美南吉と宮沢賢治の文学 | 10. 戦後児童文学の確立 | 11. 現代の児童文学 |

●レポート課題と学習ポイント

課題

絵本、あるいは児童文学作品を一つまたは複数選び、その作品と子ども読者がどのように出会うのか、幼稚園、保育所、小学校、児童館、地域・家庭文庫などの場で実際に読み聞かせて、子どもたちの様子を観察してそれを記述しなさい。またその観察を通して、子どもの読書のあり方の特質についても考察しなさい。

子どもたちに絵本や児童文学作品を読み聞かせる前に、とりあげる作品について十分に研究しておく必要があります。また、どうしてその本を子どもたちに読み聞かせるのかという自分なりのモチーフを形成して、子どもたちのいる場に臨んでください。子どもたちに読み聞かせる本を選ぶためには、まず自分がたくさんの絵本や児童文学作品に触れてみなければならないと考えます。作品を選ぶ手引きとして、テキスト（２）川端有子『児童文学の教科書』（玉川大学出版部 2013 年）や、参考文献（６）鳥越信（編著）『たのしく読める日本児童文学 戦後編』（ミネルヴァ書房 2004 年）などを読んでください。

読み聞かせたときの子どもたちの様子を観察し、それについて考察するためには、ビデオを

撮影するのもよいでしょう。本に触れたときの子どもの反応としては、言葉によるものだけでなく、身体的なものも予想されるからです。撮影したビデオを繰り返し見る中で、様々な発見があるでしょう。

大人としての自分の読みと実際に読み聞かせたときの子どもたちの反応には、何らかのズレがあるかもしれませんが、そのズレが子どもの読書の特質を考えるきっかけになります。考えていく中で、子どもの読書のあり方に関して何か仮説を立てることができたなら、その仮説を検証するために、さらに読み聞かせを重ねる必要があります。

子どもたちの様子を観察しながら考察を深めていく方法については、参考文献(1)宮川健郎『国語教育と現代児童文学のあいだ』の第3部「賢治童話と読者—子ども読者論の試み—」、絵本と子どものかわりについてはテキスト(1)村中李衣『絵本の読みあいからみえてくるもの』や(3)村中李衣・伊木洋『はじめよう！ブックコミュニケーション』、参考文献(2)『絵本を読みあうということ』、(3)『読書療法から読みあいへ』も参考になります。(4)『文化と子ども』所収の酒井晶代「現代児童文学と「読む」子ども」、村中李衣「読みあい」と子ども」も参照してください。

●使用テキスト

- (1) 村中李衣『絵本の読みあいからみえてくるもの』ぶどう社 2005 年
- (2) 川端有子『児童文学の教科書』玉川大学出版部 2013 年
- (3) 村中李衣・伊木洋『はじめよう！ブックコミュニケーション』金子書房 2019 年

●参考文献

- (1) 宮川健郎『国語教育と現代児童文学のあいだ』日本書籍 1993 年
- (2) 村中李衣『絵本を読みあうということ』ぶどう社 1997 年
- (3) 村中李衣『読書療法から読みあいへ——[場]としての絵本』教育出版 1998 年
- (4) 浅岡靖央他編『文化と子ども——子どもへのアプローチ』建帛社 2003 年
- (5) 島弘『図書館と子どもたち』久山社 2003 年
- (6) 鳥越信(編著)『たのしく読める日本児童文学 戦後編』ミネルヴァ書房 2004 年

科目コード	014220
科目名	幼児教育研究演習 C（児童家庭福祉）
担当教員	石田健太郎

●テーマ 「子育て・子育てを支援する社会」

本科目では、子どもの養育に関する社会システムとしての児童家庭福祉に対する基本的な理解にもとづきながら、福祉社会学的な視点から「子どもと家族」をいかに社会的に支援するのかといったテーマについて検討することを、第 1 の目的としています。具体的には、①行政による子ども・子育て支援の取り組み、②保健・福祉領域（教育を含む）における児童虐待への取り組み、といったトピックについて討論を行います。

第 2 の目的は、社会学における質的研究法（フィールドワーク、インタビュー、エスノメソドロジー）とそれらを用いた具体的な研究例を概観した上で、受講生各自が自分の研究テーマに関してどのような研究方法を用いて研究を進めていくべきかについて考察することです。受講生各自が今後の研究計画（研究方法）について発表し、教員を含めたクラス参加者とのインタラクションを通して、各自のテーマの理解を深めていきます。

●研究の視点

- （１）「子どもと家族」をめぐる規範
- （２）子どもの権利と子どもの参画
- （３）「責任」の形成
- （４）質的分析

●講義計画（面接授業）

上記の研究の視点にある（１）から（４）の解説を行い、①資料やテキストの輪読・視聴、②事例検討、③受講生自身の研究計画（研究方法）、についてクラス全体で討論を行います。

●レポート課題と学習ポイント

課題 以下にあげる 3 つの選択課題から一つを選択して、論述を行ってください。

- （１）「子どもの権利」に関する条例の策定について：自身の居住する自治体における子どもの参画状況について整理しながら、論述してください（条例の策定状況は、それぞれの自治体により異なります）。
- （２）「児童虐待」の支援方法について：福祉・保健領域における児童虐待への支援方法について、自治体や専門機関の具体的な取り組みをとりあげながら、論述してください。
- （３）「子どもと養育者」の相互行為場面について：子どもと養育者（専門家を含む）の間のやりとりについて、質的調査法を用いた記述を行ってください（たとえば、「ちょっと気になる子ども」のように、自らの実践における具体的な事例について分析的に記述・考察してみましよう）。

本講義（面接授業）及びテキストによる学習をふまえながら、自身の見解（工夫・改善・フィインディングス）を含めながら論述を行ってください。なお、論述の際には、テキストで用いられているキーワード等を用いるようにしてください。また、レポート課題の提出は、面接授業受講後であることが望ましい。

●使用テキスト

- （１）堀正嗣（2020）『子どもアドボケイト養成講座——子どもの声を聴き権利を守るために』明石書店
- （２）高田明（2019）『相互行為の人類学 「心」と「文化」が会合う場所』新曜社
- （３）前田拓也・秋谷直矩・朴沙羅・木下衆編（2016）『最強の社会調査入門—これから質的調査をはじめる人のために』ナカニシヤ出版

●参考文献

- （１）福祉社会学会編集（2013）『福祉社会学ハンドブック—現代を読み解く 98 の論点』中央法規（幼児教育研究 C（児童家庭福祉）の使用予定テキストです。）
- （２）比較家族史学会編（2015）『現代家族ペディア』弘文堂
- （３）上野加代子（2022）『虐待リスク—構築される子育て標準家族』生活書院
- （４）ロジャー・ハート著・木下勇監修（2010）『子どもの参画—コミュニティづくりと身近な環境ケアへの参画のための理論と実際』萌文社
- （５）子どもの参画情報センター編（2002）『子ども・若者の参画—R.ハートの問題提起に答えて』萌文社
- （６）喜多明人・荒牧重人・森田明美編（2013）『子どもにやさしいまちづくり—第 2 集』日本評論社
- （７）藤田徹（2021）『改訂版 エスノメソドロジカル・ソーシャルワーク ～「《いま-ここ》における実践」に対する能力』ブイツーソリューション
- （８）前田泰樹・水川喜文・岡田光弘編『エスノメソドロジ—人びとの実践から学ぶ』新曜社
- （９）松木洋人・中西泰子・本多真隆編（2023）『基礎からわかる社会学研究法：具体例で学ぶ研究の進めかた』ミネルヴァ書房
- （10）日本ユニセフ協会（2021）『ユニセフ日本型子どもにやさしいまちづくり事業 自治体向け実施マニュアル』
https://www.unicef.or.jp/jcu-cms/media-contents/2021/07/UNICEF_JAPAN_Child_Friendly_Cities_Initiative_Manual_ver1-1.pdf

科目コード	014230
科目名	幼児教育研究演習D（音楽教育）
担当教員	板野和彦

●テーマ 「身体運動を活用した音楽教育の原理とその実践」

平成20年に改訂された学習指導要領小学校音楽では音楽に合わせて「からだを動かす活動」について述べられており、共通事項として拍（ビート）、小節、フレーズなどを分析的に聴き取ることの重要性が併せて強調されている。

フレーベルは『幼稚園教育学』の中で子どもたちが行う身体運動を活用した遊戯を「運動遊戯」として分類、解説している。そのなかでは歌いながら行う活動も取り上げられており、これは子どもたちの心身の調和的な発達を促すための、身体運動を活用した音楽に関する活動であると考えることができる。本演習ではジャック＝ダルクロズのリトミックをはじめとしてコダーイやオルフによる教育法における身体運動を活用した音楽教育の原理とその実際的な方法について検討し、体験する。

●研究の視点

- （１）身体運動を活用した音楽教育と子どもたちの心身の調和的発達
 - （２）身体運動を活用した音楽教育と子どもたちの音楽的能力の向上
 - （３）身体運動を活用した音楽教育と子どもたちの創造性の向上
- 以上の三点は、面接授業（スクーリング）で説明します。
- （４）身体運動を活用した音楽教育の原理と実際の指導について
- この視点はレポート課題とします。

●講義計画（面接授業）

上記の研究の視点（１）～（３）について解説・検討し、実際に体験します。資料はあらかじめこちらで準備します。受講生同士の指導などの体験を含めて実際の場面における指導力も含めて身につけてゆきます。

●レポート課題と学習ポイント

「身体運動を活用した音楽教育の原理と実際の指導について」音楽教育において身体運動を活用することの意義について述べ、想定される具体的な指導法をまとめる。

・このレポート課題の提出は、後述する参考文献を利用したの考察であってよいが、面接授業受講後であることが望ましい。

●使用テキスト

- (1) L.チョクシー他 著 『音楽教育メソードの比較—コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C・M』 全音楽譜出版社 初版 1994
- (2) ヴァージニア・ホッジ ミード 著 『ダルクローズ・アプローチによる子どものための音楽授業』 ふくろう出版 初版 2006
- (3) ジュリア・ブラック、ステファン・ムーア 神原雅之 他訳 『ピアノレッスンのためのリトミック』 カワイ出版 2012

●参考文献

- (1) ジャック＝ダルクローズ 著 『リズムと音楽と教育』 全音楽譜出版社、2002
- (2) ジュリア・ブラック、ステファン・ムーア 著 『リズム・インサイド』
ふくろう出版、2005
- (3) エリザベス・バンドゥレスパー 著 『リトミック教育のための原理と指針 ダルクローズのリトミック』 ドレミ楽譜出版社、2009

科目コード	014240
科目名	障害児者教育研究演習 A（障害児者の学習・発達支援）
担当教員	佐々木敏幸

●テーマ 「共生社会の推進を目指した特別支援教育の実践 ～教員の専門性を中心に～」

現行の特別支援教育の制度には、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導があります。これらの制度では、幼児児童生徒らの障害種や障害の程度等によって教育内容は異なりますが、特別の教育課程の編成を行うことができます。特別支援学校は地域の専門機関と位置付けられ、特別支援教育を推進するセンター的機能の役割を担うようになりました。また、幼、小、中、高等学校において推進されている特別支援教育は、特別な指導の場（特別支援学級や通級による指導）だけでなく、障害のある幼児児童生徒の教育的ニーズに対応するといった理念のもとに、通常の学級に在籍する ASD、LD、ADHD 等の発達障害の幼児児童生徒に対しても、その指導や支援の適切な在り方を模索しながら現在に至ります。

これらの状況に加え、多様化する教育ニーズの中には「強度行動障害」などの二次障害とされる行動面等に課題を抱えた状態像にある児童生徒など、基本的な教育的支援の指針が示されていないような教育課題も存在します。

このような現状で、共生社会を目指したインクルーシブ教育システムを推進するために、障害のある幼児児童生徒のニーズへ適切に対応し、開かれた学校として保護者及び外部機関等との協働による指導や教育的配慮の実施が求められる時代となりました。つまり、各障害特性に応じた合理的配慮の提供や教材・教具を具体的に活用した指導を行うだけではなく、教員の専門性向上や学校のもつリソース（地域性も含む）を活用したチーム学校としての教育力も求められています。

そこで、博士前期課程の院生の皆様には、以下に列挙する使用テキスト、参考文献、参考資料等による自学・研究を踏まえ、スクーリングでの協議やケーススタディ、教材・教具の制作などを行って頂きます。

その学びを通して、①特別支援学校や特別支援学級、通級による指導など特別支援教育の制度の在り方、②共生社会を目指すための特別支援教育の場における個別最適化された指導の追及、③共生社会を目指すための小中学校の通常の学級における合理的配慮の追及、④共生社会の推進を目指した教員の専門性向上及び学校組織の教育力向上について、理解と認識を深めて頂きます。

●研究の視点

- (1) 共生社会の推進を担う特別支援教育の制度及び教員の専門性について
- (2) 多様な障害のある児童生徒に対する適切な指導や合理的配慮について
(特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級)
- (3) 特別支援教育を推進する学校組織の教育力向上とチーム学校の在り方について

●講義計画

本演習では、障害者の権利に関する条約及び特別支援教育の制度の概要、学校における合理的配慮などについて具体的な実践事例を確認しながら担当教員が講義をします。特に、TEACCH の理念や「構造化」について、映像資料等を活用したり教材・教具を制作したりしながら、教育現場の実情に合わせて多角的に学びます。その上で、特別支援教育の場における教員の指導の在り方、専門性、ケーススタディを通じたチームビルディングなどについて演習を行い、下記の（１）～（３）の演習テーマから選択しレポートを提出して頂く予定です。

- （１）特別支援学校または特別支援学級における多様な障害のある幼児児童生徒への指導、支援、配慮、教員の専門性や組織的な教育（支援）について
- （２）通級による指導または通常の学級における発達障害（LD/ADHD/高機能自閉症等）の幼児児童生徒への指導、支援、配慮、教員の専門性や組織的な教育（支援）について
- （３）行動障害など、二次障害も含む多様な背景のある行動面や心理面に課題を抱えた幼児児童生徒への指導、支援、配慮、教員の専門性や組織的な教育（支援）について

●レポート課題と学習ポイント

上記３つの演習テーマの中から１つを選び、使用テキストおよび参考文献等、さらには演習時の発表・協議等の内容を踏まえた上で、院生自身の経験・見解を含めながら論述してもらいます。

●使用テキスト

- （１）野内友規・綿引清勝（2022）『気になる子のインクルーシブ教育・保育 幼稚園教諭・保育士養成課程、教職課程対応』中央法規出版
- （２）青木高光（2024）『わかる、できる、伝えられる、ように・・・教室の中の視覚支援 場所・時間・活動を構造化しよう』明治図書
- （３）穴戸和成・古川勝也・徳永豊・齋藤宇開・肥後祥治（2023）『特別支援教育のエッセンス 自閉スペクトラム症教育の基本と実践』慶應義塾大学出版会

●参考文献

- （１）小貫悟・川上康則（2020）『テキストブック 授業のユニバーサルデザイン 特別支援教育・学級経営』一般社団法人日本授業 UD 学会
- （２）佐々木敏幸・縄岡好晴（2021）『自閉スペクトラム症のある子の「できる」をかなえる！構造化のための支援ツール 個別編』明治図書出版
- （３）佐々木敏幸・縄岡好晴（2021）『自閉スペクトラム症のある子の「できる」をかなえる！構造化のための支援ツール 集団編』明治図書出版
- （４）村本浄司（2020）『施設職員 ABA 支援入門 一行動障害のある人へのアプローチ』学苑社
- （５）川上康則（2020）『子どもの心の受け止め方 発達につまずきのある子どもを伸ばすヒント』光村図書出版
- （６）柘植雅義・奥田健次（2018）『教師と学校が変わる学校コンサルテーション』金子書房
- （７）内山登紀夫・川上康則（2015）『通常学級でできる発達障害のある子の学習支援』ミネ

ルヴァ書房

- (8) 独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 (2014) 『強度行動障害支援者養成研修 (基礎研修) 受講者用テキスト』 (HP からダウンロード)
<https://www.nozomi.go.jp/investigation/pdf/report/04/05.pdf>

科目コード	014250
科目名	障害児者教育研究演習B（障害児者自立支援）
担当教員	島田博祐

- テーマ：生涯発達を見据えた教育と障害児者の自立支援に係る実践的アプローチ
 —ソーシャルスキルトレーニング（SST）・行動評価・障害理解教育・QOL（生活の質）について—

障害児者の自立支援には、ADL（日常生活動作・能力）の向上に加え、ソーシャルスキルの形成が不可欠である。特に軽度知的障害児者や知的遅れのない発達障害児者の場合は、それが特に重要となる、何故なら彼らの多くは基本的なADL面に問題はないが、対人関係面を中心としたソーシャルスキルが不十分なことが多く、それが様々な失敗の要因につながり、社会的自立のバリアになっているからである。本来、同スキルは学校等の社会集団の中で自然に習得されるが、認知面の未発達や偏りにより十分に学習できない面があり、教育の中にソーシャルスキルトレーニング（以下 SST）を採り入れる必要が生じる。この基礎を行動観察の手法と併せ学ぶことが第一の目的である。

教育を通じてのスキル形成や能力開発は重要だが、一方で生涯にわたる QOL（生活の質）の豊かさを保障していく教育への転換が、ノーマライゼーションの流れの中で益々重要視されるようになっており、ICF（国際生活機能分類）における環境因子の重視にもつながっている。その観点に立ち、環境調整を教育支援に生かす方法として、応用行動分析（ABA）の考え方から生まれた機能（ABC）分析、TEACCH プログラムにおける構造化、ジョブコーチのシステムティックインストラクションの中に含まれる課題分析、職務分析がある。これらに関する知識を、行動評価の視点から深めることが第二の目的である。

さらに環境調整は物理的な側面だけでなく、人的な面でも考慮する必要がある。特別支援教育が推進されていく過程で、多くの障害児が学級内において適応し生き生きと活動できるようになるには、障害児自身への指導だけでなく、周囲の健常児・教員・保護者に対し障害理解を進めることが益々必要となる。それを目的として実施される教育が障害理解教育であり、前述した ICF の視点でいえば、人的環境因子を改善する働きを持つと考えられる。この点に関し、QOL 重視の観点からの認識を深めることが第三の目的である。

これらの目的を踏まえて本演習では、通学課程の演習科目で行っている SST の動画記録、SST の体験演習なども取り入れながら、少人数のメリットを生かしアクティブに進めていきたい。使用予定の書籍は、可能なら事前に一読してきていただきたい。

●目標

- (1) SST（社会的スキル訓練）の基礎に関し、作成上の注意点、行動観察の視点も踏まえ学ぶ
- (2) 構造化、課題分析など、システムティックインストラクションに係る手法に関し、学ぶ
- (3) QOL（生活の質）の定義、評価と教育・福祉・医療分野への適用に関し学ぶ
- (4) 障害理解教育の意義と方法について理解する。
- (5) 上記テーマを通じての発表や相互の議論を通じ、分析・考察力を高め、修士論文執筆に生かしていけるようにする。

●講義計画 一受講者のニーズに併せ、年度毎に若干変更あり

1. SSTに係る指導案の作成と演習、行動観察法（インフォーマルアセスメント）
2. ソーシャルスキルとライフスキルの関係—どこまで訓練すべきか、般化の課題
3. ADL 重視から QOL（生活の質）重視へ QOL について
4. 障害理解、障害受容の課題について
5. 参加者からの研究報告
6. 実証的研究の方法論（質問紙法、観察法、実験法等）
～4を受けて希望があった場合

●レポート課題と学習ポイント

- (1) SST 演習に係る教材、指導案の作成、(2) 環境調整の工夫案、(3) ソーシャルスキルとライフスキルの関係性、(4) 演習全般の感想等のいずれかの内容を含むレポートを作成し、後日、通信教育事務室に提出すること

●使用テキスト

- (1) 綿引清勝・島田博祐「SST&運動プログラムトレーニングブック」 学苑社
- (2) 水野智美 はじめよう！障害理解教育：子どもの発達段階に沿った指導計画と授業例
図書文化
- (3) 梅永雄二・島田博祐・森下由規子編著 『みんなで考える特別支援教育』北樹出版
- (4) 小林亜津子著 『QOL ってなんだろう？』 ちくまプリマー新書 2018

●参考文献

- (1) 佐々木敏幸・縄岡好晴 自閉スペクトラム症のある子の「できる」をかなえる！構造化のための支援ツール 集団編 明治図書
- (2) 西永堅 子どもの発達障害とソーシャルスキルトレーニングのコツがわかる本 ソシム株式会社
- (3) エリザベス・A・ローガソン著 『友だち作りの科学—社会性に課題のある思春期・青年期のための SST ガイドブック』 金剛出版

科目コード	014260
科目名	障害児者教育研究演習C（小児保健）
担当教員	星山麻木

●テーマ 「特別な支援を必要とする子ども、保護者、支援者に対する支援の実際」

この科目では、教育に関わる人すべてに関連すると思われる特別な支援を必要とする子どもと保護者に対する支援について、演習を交えて知識と実践力を深め、自らの知と感性を磨きます。討論、プレゼンテーション、実技を交え、個別の教育支援計画の作成、保護者や支援者に対する実際的な支援方法について考察を深めます。

●研究の視点

- （１）特別な支援を必要とする子どもの特性や支援方法に対する基本的な理解
- （２）個別の教育支援計画の作成について
- （３）保護者と支援者に対する支援について

●講義計画

- １．オリエンテーション
- ２．特別な支援を必要とする子どもとは？
- ３．子どもの理解と支援方法のプレゼンテーションと討論
- ４．音楽や動きを通じての体験
- ５．授業やセッション案の作成
- ６．テーマに対する討論

●レポート課題と学習ポイント

特別な支援を必要とする子ども、保護者、支援者に対する支援の実際について、この授業を通じて、学んだことから１つテーマを選択し、考察してください。

教育に関わる人すべてに関連すると思われる特別な支援を必要とする子どもと保護者に対する支援について、（１）個別の教育支援計画の作成について（２）保護者と支援者に対する支援、どちらか興味のあるテーマについて、授業で学んだことを参考にして、考察を深めてください。

●使用テキスト

- （１）星山麻木 『星と虹色なこどもたち』 学苑社 2020
- （２）湯浅 恭正 『よくわかる特別支援教育〔第2版〕』 ミネルヴァ書房 2018
- （３）星山麻木 『増補新版 気になる子もみんないきいき保育』 河出書房新社 2019

●参考文献

- (1) 竹田契一 他 『幼児期軽度発達障害児への支援』発達 97 ミネルヴァ書房 2004
- (2) 東京 IEP 研究会 『個別教育・援助プラン』 安田生命事業団 2000
- (3) 杉山登志郎 『「ギフテッド」天才の育て方』 学研教育出版 2009
- (4) 星山麻木・板野和彦 『一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現』 萌文書林 2015
- (5) 星山麻木 『ちがうことは強いこと』 河出書房新社 2021